

## 第 2 章 県指定保護文化財 (指定)

第 4 条 教育委員会は、有形文化財（法第 27 条第 1 項の規定により重要文化財に指定されたものを除く。）のうち県にとって重要なものを鳥取県指定保護文化財（以下「県指定保護文化財」という。）に指定することができる。

- 2 前項の規定による指定をするには、教育委員会は、あらかじめ、指定しようとする有形文化財の所有者及び権原に基づく占有者の同意を得なければならない。ただし、所有者又は権原に基づく占有者が判明しないときは、この限りでない。
- 3 第 1 項の規定による指定は、その旨を告示するとともに、当該県指定保護文化財の所有者及び権原に基づく占有者に通知してする。
- 4 第 1 項の規定による指定は、前項の規定による告示があった日からその効力を生ずる。
- 5 第 1 項の規定による指定をしたときは、教育委員会は、当該県指定保護文化財の所有権に指定書を交付しなければならない。

## 第 3 章 県指定無形文化財 (指定)

第 19 条 教育委員会は、無形文化財（法第 71 条第 1 項の規定により重要無形文化財に指定されたものを除く。）のうち県にとって重要なものを鳥取県指定無形文化財（以下「県指定無形文化財」という。）に指定することができる。

- 2 教育委員会は、前項の規定による指定をするに当たっては、当該県指定無形文化財の保持者又は保持団体（無形文化財を保持する者が主たる構成員となっている団体で代表者の定めのあるものをいう。以下同じ。）を認定しなければならない。
- 3 第 1 項の規定による指定は、その旨を告示するとともに、当該県指定無形文化財の保持者又は保持団体として認定しようとするもの（保持団体にあつては、その代表者）に通知してする。
- 4 教育委員会は、第 1 項の規定による指定をした後においても、当該県指定無形文化財の保持者又は保持団体として認定するに足りるものがあると認めるときは、そのものを保持者又は保持団体として追加認定することができる。
- 5 前項の規定による追加認定には、第 3 項の規定を準用する

## 第 4 章 県指定有形民俗文化財及び県指定無形民俗文化財 (指定)

第 25 条 教育委員会は、有形の民俗文化財（法第 78 条第 1 項の規定により重要有形民俗文化財に指定されたものを除く。）のうち県にとって重要なものを鳥取県指定有形民俗文化財（以下「県指定有形民俗文化財」という。）に、無形の民俗文化財（法第 78 条第 1 項の規定により重要無形民俗文化財に指定されたものを除く。）のうち県にとって重要なものを鳥取県指定無形民俗文化財（以下「県指定無形民俗文化財」という。）に指定することができる。

- 2 前項の規定による県指定有形民俗文化財の指定には、第 4 条第 2 項から第 5 項までの規定を準用する。
- 3 第 1 項の規定による県指定無形民俗文化財の指定は、その旨を告示してする。

## 第 8 章 雑則

(鳥取県文化財保護審議会への諮問)

第 44 条 教育委員会は、第 4 条第 1 項、第 19 条第 1 項、第 25 条第 1 項、第 30 条第 1 項及び第 31 条の 2 第 1 項の規定による指定、第 5 条第 1 項、第 20 条第 1 項、第 26 条第 1 項、第 31 条第 1 項及び第 31 条の 3 第 1 項の規定による指定の解除、第 19 条第 2 項及び第 4 項(第 39 条第 4 項で準用する場合を含む。)並びに第 39 条第 2 項の規定による認定、第 20 条第 2 項及び第 40 条第 2 項の規定による認定の解除、第 29 条第 1 項の規定による選択、第 35 条の 2 第 1 項、第 36 条第 1 項及び第 39 条第 1 項の規定による選定並びに第 35 条の 3 第 1 項、第 37 条第 1 項及び第 40 条第 1 項の規定による選定の解除をしようとするときは、あらかじめ、鳥取県文化財保護審議会の意見を聴かなければならない。(昭 50 条例 40・追加、平 18 条例 38・一部改正)

## 補 足 説 明 資 料

- 1 名 称 宮本家文書
- 2 員 数 14 点
- 3 所在の場所 鳥取市東町 2 丁目 124 番地
- 4 所 有 者 鳥取県立博物館
- 5 種 別 保護文化財 古文書の部
- 6 基 準 1 古文書類は、我が県の歴史上重要と認められるもの  
4 古文書類、日記、記録類で歴史的又は系統的にまとまって伝存し、学術的価値の高いもの
- 7 説 明

( 1 ) 伝来の経緯

宮本家文書は、江戸期に伯耆国米子の商家であった宮本家に伝来したものである。その後は、宮本家の移住にともなって、明治期には倉吉へ、さらには秋田県や群馬県へと所在地を変えてきた。平成 29 年(2017)6 月 22 日、系図類を除く中世から現代までの 206 点の史料が鳥取県立博物館に所蔵されることとなり、現在に至っている。現状は、おおむね 1 点ごとに封筒に入れて保管されており、保存状態は良好である。

宮本家に残された系図等によれば、元和年間(1615～1624)に村上三助が亀井氏に仕えて伯耆国から石見国津和野へ移ったが、寛永 21 年(1644)以降、三助の長男三左衛門が浪人となり、三左衛門の妻の姉妹の嫁ぎ先であった伯耆国米子の宮本家を頼ったという。そして、三左衛門の孫の千吉が宮本家の養子となって跡を嗣いだため、村上三助が所持していた文書も宮本家に伝来することになった、と理解されてきたことがうかがえる。

一方、これも宮本家に残された系図によれば、村上三左衛門の弟吉左衛門の子太左衛門が、萩藩家臣の蔵田氏を頼って長門国萩へ移り、さらにその子の平蔵が萩藩家臣木原氏の養子となったこと、同じく太左衛門の娘が萩藩家臣熊野次郎左衛門に嫁いだこと、などが記されている。享保年間前半(1720～1726 年頃)に成立した「閩閩録」巻 158 飯田与一左衛門組 木原平蔵(『萩藩閩閩録』第四巻)には、宮本家文書の宛名と同じ名前の人物に宛てた中世文書が 15 点掲載されている。これらと、宮本家文書原本との重複はなく、元来は一つの文書群であったと考えられる。「閩閩録」に木原平蔵が記した由緒によれば、「先祖は福頼を村上に改称し、亀井茲親に仕えていたが、父の太郎左衛門が浪人となり、蔵田就尚を頼って萩に来た。平蔵は、木原茂兵衛の養子となった。しかし、先祖の系譜や村上に改称した事情については、幼少時に父と別れたため詳しいことがわからない」と述べている。このことから、17 世紀半ばに村上氏が亀井家から召し放たれた際、二つの家に分かれた結果、村上三助所持の文書が米子と萩のそれぞれに二分されて伝来したものと思われる。

ところで、宮本家文書や「閩閩録」巻 158 飯田与一左衛門組 木原平蔵 の中世文書には、村上氏(新次郎・太郎左衛門尉・三助)を宛名とするものと、福頼氏(左京亮・三郎左衛門尉・四郎次郎・新三郎・左衛門尉・吉蔵)を宛名とするものが見られる。「大館常興書札抄」(『群書類従』145)によれば、16 世紀初期の福頼氏と村上氏は、ともに「伯州衆」として列記されており、別

の領主家として併存していたと考えられる。

中世伯耆国の村上氏は、文明3年(1471)に伯耆から出雲へ攻め込んだ村上民部が井尻難波城で討死したこと(「佐々木文書」『出雲尼子史料集』49)、三輪神社(米子市淀江町小波)の棟札に、永正15年(1518)の願主として村上源左衛門尉高晴、天文23年(1554)の願主として村上忠左衛門宗次を確認できることにより、出雲尼子氏の侵攻に翻弄された伯耆国淀江の領主であったと推測される。

中世の福頼氏は、伯耆・出雲両国内に複数確認され、それらが同じ血族であるのか、まったく別の家であるのか、判断できないのが現状である。「福頼」という地名は、米子市淀江町、西伯郡南部町、島根県奥出雲町、出雲市佐田町などにいくつも確認され、また中世の出雲国佐陀荘のうち島根郡域の部分を「福頼分」と称していた。尼子氏家臣に多数の福頼氏を確認できるが、それらの出自と地名の関係も定かではない。中世の宮本家文書に現れる受給者としての福頼氏は、毛利氏の時代に限られる点にも特徴がある。

宮本家に残された系図によれば、村上新次郎がのちに福頼左衛門と称し、その子息たちが村上三助・福頼吉蔵・福頼左京亮・福頼三郎左衛門・福頼四郎次郎・福頼新三郎・村上太郎左衛門の7人であると記している。しかし、文書に現れる人名と年代が整合しないので、おそらく系図のうちのこの部分については、伝来文書の宛名を見ながら後世に作成されたものと推測される。宮本家文書のなかで、村上氏と福頼氏が両方記されたものはなく、また官途名・仮名が両方の名字で用いられた事例も確認できない。特に、慶長3年(1598)には、村上三助宛ての文書と、福頼吉蔵宛ての文書が、併存している。その意味では、福頼氏宛ての文書群と宮本家との関連性については、なお明瞭でない部分が残されている。

なお、宮本家文書所収「感状写」は、宮本家文書と「閩閩録」収載文書のうち28通を写した横帳形式の冊子であるが、このうち8月9日陶晴賢書状写(村上新二郎から贈られた太刀一腰の礼状)のみは他に確認できないものである。史料情報としては貴重と思われる。また、東京大学史料編纂所影写本「宮本文書」に収載されている9月29日山名宗詮(祐豊)・徳寿丸連署書状(村上新次郎宛)の原本は、現在は確認できないので、倉吉において明治29年(1896)に調査されて以降、宮本家の手許を離れた可能性がある。

文書の保存状態は良好であり、切封がもとのまま残されていることからわかるように、大変丁寧に保存・継承されてきたものと考えられる。

## (2) 文書の内容

このたび文化財指定候補として答申する古文書は、宮本家伝来の中世文書14点である。

|                    |  |              |
|--------------------|--|--------------|
| 1.(年未詳)3月3日        | <small>おおうちよしただかしよじょう</small> 大内義隆書状(切紙)           | 21.5×51.2 cm |
| 2.(年未詳)3月19日       | <small>おおうちしげきょうじんれんしほそえじょう</small> 大内氏奉行人連署副状(切紙) | 17.7×41.3 cm |
| 3.(年未詳)8月10日       | <small>すえはるかた</small> 陶晴賢副状(切紙)                    | 20.1×51.0 cm |
| 4.(年未詳)6月27日       | <small>やまなむねとよ</small> 山名棟豊書状(切紙)                  | 16.2×44.2 cm |
| 5.(年未詳)7月2日        | <small>やまなとうりょう</small> 山名東揚書状(切紙)                 | 17.5×42.4 cm |
| 6.(永禄7年 1564)2月10日 | <small>ひらさなりゆき</small> 平佐就之書状                      | 25.2×78.0 cm |

|                          |  |              |
|--------------------------|--|--------------|
| 7 .(年未詳) 5月 17日          | <sup>こばやかわたかかげ</sup> 小早川隆景書状(切紙)                           | 16.8×43.2 cm |
| 8 .(天正 13年 1585) 7月 23日  | <sup>きつかわもとほる</sup> 吉川元春書状(折紙)                             | 29.0×46.1 cm |
| 9 .(天正 16年 1588) 8月 晦日   | <sup>もうりてるもと</sup> 毛利輝元書状(折紙)                              | 25.2×78.0 cm |
| 10 .(天正 16年 1588) 9月 20日 | 毛利輝元書状(折紙)   | 31.4×48.0 cm |
| 11 .(年未詳) 8月 14日         | <sup>にのみやなりとき</sup> 二宮就辰書状(折紙)                             | 27.0×43.2 cm |
| 12 .(年未詳) 8月 15日         | 毛利輝元書状(折紙)   | 29.4×44.0 cm |
| 13 .(慶長 3年 1598) 正月 7日   | <sup>あんこくじえい</sup> 安国寺恵瓊・ <sup>ふくばらひろとし</sup> 福原広俊連署書状(折紙) | 31.4×49.0 cm |
| 14 .(慶長 3年 1598) 5月 14日  | <sup>えのもともとよし</sup> 榎本元吉書状(折紙)                             | 32.0×49.2 cm |

以下、それぞれの文書について、概要を述べる。1～3は大内氏から村上新次郎に宛てたもの、4・5は山名氏から村上新次郎に宛てたもの、6は毛利氏から村上太郎左衛門尉に宛てたもの、7～14は毛利氏関係者から福頼氏に宛てたものである。

1は、周防国の大内義隆が、村上新次郎に対して、贈られてきた太刀の返礼として、太刀1腰と兵糧料黄金1枚を遣わした際の書状である。天文16～19年(1547～1550)頃の村上氏が大内氏に従っていたことを示している。縦紙の周囲を切って掛軸に表装されていたものを、再度切り出したものと思われ、文書全体が後世に施された柿渋で覆われていることなどからも明らかのように、「宮本家文書」の中でもとりわけ重視されてきたことがわかる。2・3は、大内氏家臣が、村上新次郎と大内氏当主との贈答を取り次ぎ、当主発給文書(直書)に添えて送った副状である。

4・5は、但馬国守護(山名惣領家)山名祐豊の子息棟豊と、祐豊弟の山名東揚が、それぞれ村上新次郎に宛てた書状である。いずれも永禄年間(1558～1570)前半頃に、尼子方と戦うため但馬国・因幡国から伯耆国方面へ向けて出兵する旨を伝えている。

6は、永禄7年(1564)に、毛利元就家臣の平佐就之が、伯耆国淀江の村上太郎左衛門尉に対して、軍需物資輸送等に関する指示を伝えた書状である。当時の毛利元就は、出雲尼子氏を攻撃するために出雲国洗江在陣中であり、村上氏に対して兵糧米の受け取りとその差配や、尼子方へ送られる兵糧の荷留を命じている。当時の村上氏は、「西伯耆戦線における毛利氏の兵糧米支給ラインの中核を担う存在」(岡村吉彦2004)であったことがわかる。

7は、元亀元年(1570)頃のものと思われ、尼子勝久が島根郡の新山城を拠点に毛利氏と戦っている時期のものである。小早川隆景(毛利元就の三男)が、福頼左京亮ほか4名に対して、同族と思われる福頼新三郎が毛利方に転じたことを、安芸国吉田の毛利元就も評価している旨、伝えたものである。なお、宛先の一人である福頼三郎左衛門尉は、永禄9年(1566)に尼子氏の本拠富田城が毛利氏によって落城した際に、最後まで城内に立て籠もっていた人物と同じ名前である。

8は、天正13年(1585)吉川元春(毛利元就の次男)から、福頼左衛門尉に対して、汗入郡の河原山城(香原山城、西伯郡大山町)を南条氏から奪回したことを賞したものである。

9・10は、天正16年(1588)毛利輝元から福頼左衛門尉に対して、豊臣秀吉から命じられた方広寺大仏殿や淀城の材木供出について、毛利氏家臣井原氏・秋山氏の指揮下で備中国からの搬出作業を行うよう指示したものである。

11・12は、毛利輝元とその家臣二宮就辰から、福頼左衛門尉に対して、疵の治療に専念するよう伝えたものである。

13は、慶長3年(1598)毛利氏の重臣安国寺惠瓊と福原広俊から、毛利輝元側近の榎本元吉に対して、豊臣秀吉の朝鮮侵攻に従って蔚山籠城戦において多大な人的・物的損害を受けた福頼吉蔵について、公役賦課を猶予するよう、当主輝元へ取り次ぐことを求めた書状である。14は、その結果、毛利輝元がそれを認めた旨を、榎本元吉から福頼吉蔵に伝えたものである。

中世伯耆国の在地領主に関する史料はほとんど残されていないが、宮本家文書は、村上氏や福頼氏の具体的な動向を示す希少な史料であり、山名氏・大内氏・毛利氏などとの結びつきを確認できる点も、大変貴重である。

また、このたび文化財指定候補として答申する古文書14点は、鳥取県立博物館所蔵の206点をはじめとする宮本家文書のなかから、16世紀の原文書を特に重要と判断して指定対象としたものであるが、宮本家に伝来した他の歴史資料についても、伯耆国の在地領主が中近世移行期の複雑な情勢を生き抜いた過程や、江戸期の鳥取藩領内における有力商家の成り立ち、さらにはその後の変遷を示す貴重な史料群であると言える。指定候補14点は、系統的にまとまって伝えられてきた宮本家文書全体の価値を、一層高める役割を果たしていると考えられる。

### (3) 評価

以上のように、宮本家文書は、中世伯耆国の在地領主家の良質な伝来文書が現存しているという意味において希少な価値を有するのみならず、16世紀における伯耆国と周防大内氏・但馬山名氏・安芸毛利氏との関係性や政治情勢を知ることのできる史料としても貴重であり、本県の歴史上において重要と認められる。また、指定候補の中世文書は、系統的にまとまって伝来した宮本家文書全体の価値を、一層高める役割を果たしていると考えられる。

よって、宮本家文書は鳥取県指定文化財に指定し保護するに相応しい価値を有するものと判断される。

### 【参考文献】

佐伯元吉編『因伯叢書(第四冊)伯耆志』(名著出版、1972年)

『鳥取県史2 中世』(1973年)

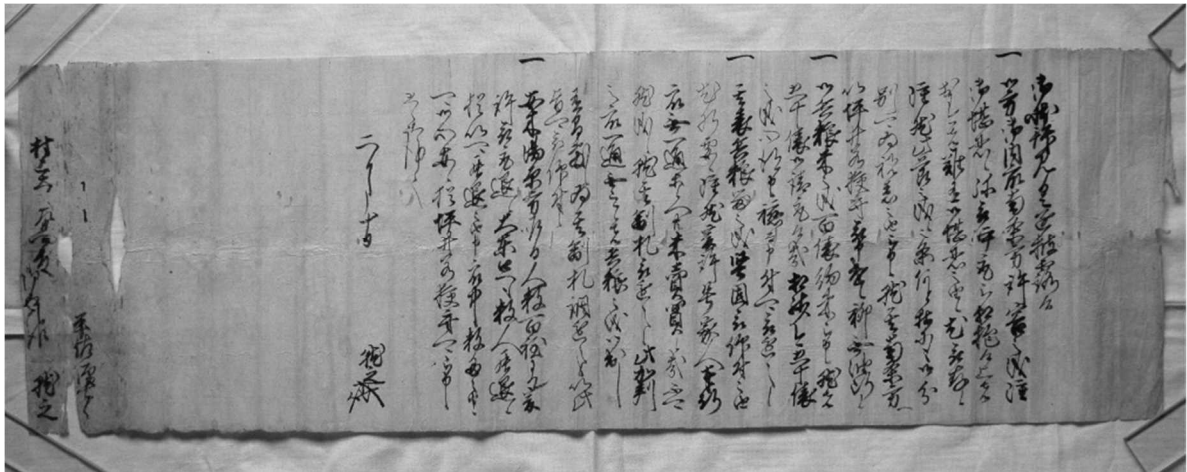
岡村吉彦「毛利氏の兵糧政策と西伯耆国人村上氏」(『鳥取地域史研究』7、2005年)

岡村吉彦「『宮本文書』の翻刻と紹介」(『鳥取地域史研究』13、2011年)

『新鳥取県史 資料編 古代中世1 古文書編 上』(鳥取県、2015年)



(年未詳) 3月3日 大内義隆書状(切紙)



(永禄7年 1564) 2月10日 平佐就之書状



(年未詳) 5月17日 小早川隆景書状(切紙)



- 1 名 称 絹本着色 五大明王像
- 2 員 数 5幅
- 3 所在の場所 鳥取市東町2丁目124番地(鳥取県立博物館寄託)
- 4 所 有 者 大安興寺
- 5 種 別 保護文化財 絵画、彫刻の部
- 6 基 準 1 各時代の遺品のうち制作優秀で我が県の文化史上貴重なもの  
2 我が県の絵画・彫刻史上特に意義のある資料となるもの

## 7 説 明

### (1) 作品概要

【寸法】不動幅 144.0×70.0 cm

他四幅 各 108.0×54.0 cm

【品質】絹本着色

【制作時期】鎌倉時代

### (2) 作品の詳細

不動明王二童子像を中幅とし、降三世明王(東方)、大威徳明王(西方)、軍荼利明王(南方)、金剛夜叉明王(北方)の5幅からなる五大明王像一具である。中央と四方に割り振られたこの構成は一般的なものであるが、二童子を伴う不動幅のみ大きい点は珍しい形式である。不動幅以外の4幅は、上下に小巾の補絹が入っている。

不動幅は、二童子を伴う不動三尊からなり、三体とも海中の岩座に立つ。不動は右手剣、左手索を持ち、肉身は群青に表される。両眼は左目をすがめる天地眼、唇両端の牙は上下に差し出す。髪は巻髪で頭頂に七沙髻を金泥描で表す(ただし補筆が混じる)。光背の朱色の迦楼羅炎は全身を覆う大型のもので、上端部はいずれかの修補のときに切断されている。「不動十九観」に基づく像容ながら、岩座に立って左腕を垂下されるこの図像は、平安末期から鎌倉時代に流行したいわゆる円心様図像の一例とみなされる。矜羯羅童子は右手に蓮華茎、左手に独鈷杵、制多迦童子は左手に棒を持ち、右手で頤を支える姿に表される。背景をなす海波は画面上部まで及んでいる。こうした表現は鎌倉時代半ば以降にしばしば見受けられる。

東方に当てられる降三世明王は三面八臂で、足下に毛氈座上に横たわる大自在天と烏摩妃を踏まえる。顔は三目で、向って右を向く。左右の第一手で印を結び、ほかの左手には三鈷戟・弓・輪索、右手には剣・箭・独鈷杵をとる。着衣の文様などに截金は用いず、彩色と金泥描を中心に表わしている。

西方の大威徳明王は六面六臂六足で、岩座に臥す水牛に乗る。顔は三目で、向って右を向く。左三手の持物は弓・輪索・三鈷戟、右三手の持物は箭・宝棒・剣となっている。持物や装身具に金泥を用いるのは、降三世と同じ表現である。

南方の軍荼利明王は一面三目六臂で、岩座上の踏割蓮台に蹶起する姿である。顔は三目で、向って左を向く。左右第一手は胸前で交差して印を結ぶ。ほかの左手には金剛斧・三叉戟・輪宝、

右手は二手が印を構え、残りの一手で三鈷杵をとる。持物装身具には金泥が多用されるほか、斧には銀泥も確認される。

北方の金剛夜叉明王は三面六臂で、岩座上の踏割蓮台に蹶起する。顔は五目で、正面を向く。左の三手には五鈷鈴・弓・輪宝、右三手に五鈷杵・箭・剣をとる。

これら四明王は肉身がいずれも群青で、頭光のほか、全身を覆う火炎光背を負っている。

### (3) 評価

所蔵者の大安興寺は鳥取市用瀬町にある真言宗寺院（高野山末）で、寺伝では法道仙人の開基とされる。本作品は、もと大阪の泉州（和泉市）槇尾山文殊院に伝来したもので、江戸時代に大安興寺に施入されたことが袂背外題と箱書の内容や、鳥取藩政資料にある天保15年（1844）の大安興寺起立書の中に「五大尊 絵像五幅鳥羽僧正範後師筆」とあることから知られる。槇尾山は施福寺の山号で、著名な天台寺院だが、中世までは真言宗に属し、元禄ころは八十余坊を擁していたという。文殊院は未確認ながら、山内の一坊であったのだろう。

五大明王（五大尊とも）は、密教の代表的な忿怒尊セットで、五尊一具で用いる場合は息災・増益を祈る五壇法の本尊として祀られることが多かった。

本作品は中規模な五幅セットで、仏画の伝統的な描写法にのっとり、彩色を中心として動的な姿態と力強い火炎光背を的確に表現している。着衣の文様は彩色と金泥の二種からなり、截金は用いない。尊像表現には形式化の傾向も見受けられるが、忿怒尊の威風を充分に表出できており、金泥文様には鎌倉時代後半の流行を反映した描写もうかがえる。五幅とも素材となる絵絹は同質で、鎌倉時代後半の特色を示している。制作年代も13世紀後半とみてよいと思われる。

鳥取県内の五大明王一具の遺品としては、最古例として貴重である。

なお、本作品は鳥取県立博物館に寄託されており、保管環境や防災・防犯について何ら問題はない。しかし、表装の一部が剥がれる等、保存状態が悪く、今後修復されることが望ましい。

### (4) 参考

#### 【箱書】

表「五大尊 槇尾山 文殊院」

裏「<sup>(1726)</sup>享保十一丙午天正月求得之 祐運 泉州槇尾山

五大尊五幅鳥羽僧正御筆也

<sup>(1755)</sup>宝曆五乙亥年八月箱造之 祐嚴 文殊院什物」

#### 【各幅袂背の外題】

「五大尊 中央不動明王 鳥羽僧正御筆 五幅之内 泉州槇尾山文殊院什物」

「東方降三世明王 鳥羽僧正御筆 五幅之内 泉州槇尾山文殊院什物」

「西方大威徳明王 鳥羽僧正御筆 五幅之内 泉州槇尾山文殊院什物」

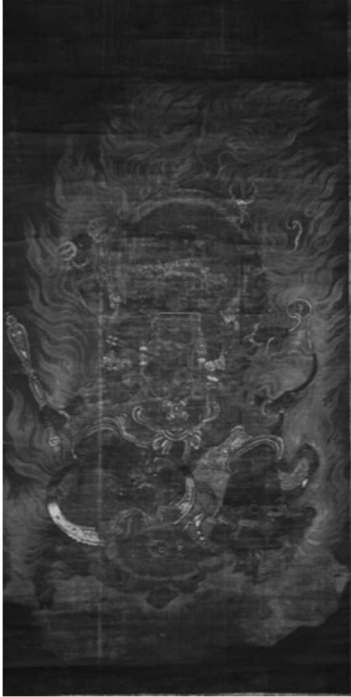
「南方軍荼利夜叉明王 鳥羽僧正御筆 五幅之内 泉州槇尾山文殊院什物」

「北方金剛夜叉明王 鳥羽僧正御筆 五幅之内 泉州槇尾山文殊院什物」

\* 内は割書き

【参考文献】

『新鳥取県史 資料編 近世4 因幡上』鳥取県刊、2018年



大威徳明王像



金剛夜叉明王像



不動明王二童子像



軍荼利明王像



降三世明王像

けんぼんちゃくしよく あいぜんみょうおうぞう  
絹本着色 愛染明王像 説明資料

- 1 名 称 絹本着色 愛染明王像
- 2 員 数 1幅
- 3 所在の場所 鳥取市東町2丁目124番地（鳥取県立博物館寄託）
- 4 所 有 者 大安興寺
- 5 種 別 保護文化財 絵画、彫刻の部
- 6 基 準 1 各時代の遺品のうち製作優秀で我が県の文化史上貴重なもの  
2 我が県の絵画・彫刻史上特に意義のある資料となるもの
- 7 説 明

(1) 作品概要

【寸法】98.1×39.6 cm

【品質】絹本着色

【制作時期】鎌倉時代

(2) 作品の詳細

縦長画面に宝瓶<sup>ほうびょう</sup>上の蓮華座に坐す一面三目六臂の愛染明王を表している。

肉身は朱色で、濃淡によるぼかしを加える。開口した忿怒相は小振りながら迫力がある。

髪は怒髪<sup>どはつ</sup>で獅子冠<sup>しんこう</sup>をいただき、波状光入りの頭光<sup>ずこう</sup>、身光<sup>しんこう</sup>、および火炎入りの拳身光<sup>きょしんこう</sup>を負っている。

六臂の持物は、左第一手に金剛鈴、第二手に弓、第三手は拳、右第一手に金剛杵、第二手に箭、第三手に未敷蓮華茎<sup>みぶれんげけい</sup>となっている。蓮華座は朱弁<sup>きりかね</sup>で、截金の弁脈<sup>きりかね</sup>をていねいに加えている。画面下方の反花<sup>かえりばな</sup>に載る宝瓶からは、種々の宝が左右にあふれ出る様子を描いている。

彩色を中心とする作風だが、持物の弓の弦や、蓮弁には截金線を用いていて、こまやかな装飾感覚がうかがえる。持物・装身具それに宝瓶は、現在暗い色を呈しているが、もとは裏箔<sup>うらはく</sup>（絹裏から金箔を押す）であったと推測される。

なお、現状では画面上端に巾16.6 cm、下端に巾8.8 cmの補絹が加えられている。

(3) 評価

愛染明王は平安時代後半から信仰が高まった密教の忿怒尊である。一面六臂の愛染明王は金剛智<sup>こんごうち</sup>智<sup>ち</sup>『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇<sup>こんごうぶろうかくいっさいゆがゆぎきょう</sup>経』に基づくもので、本作品も通常の図像である。種々の目的で行われる愛染法の本尊だが、左第三手の持物はその目的に応じて変化し、画像の場合は行者の心中に想い浮かべることになっている。

本作品は、仏画の伝統的な描写法に則っており、新奇な表現こそないものの、ていねいな賦彩<sup>ふさい</sup>や抑制された金色の併用などにより、奥深い画面を作り上げている。絵絹の状態とも考えあわせて、13世紀も鎌倉時代後半の制作と位置づけられる。愛染明王像の類品は全国的に数多いが、県内では本作品が最古例と思われ、その点でも貴重である。

なお、旧袂背には宝永元年(1704)と安永4年(1772)の修補銘があり、江戸時代中頃までには大安興寺に伝来したことが確認できる。

本作品は、修理が行われており状態がよく、鳥取県立博物館に寄託されており、今後の保存・活用について問題がない。

(4) 参考

【旧袂背裏書】

「愛染明王像 弘法大師筆」

「<sup>(1772)</sup> 岩安永第四末春 修覆 大安興寺五 住宿元 梨代修造之 正銀四拾九匁七分

右淨財施入之檀越

智頭郡鷹狩邑

森田 傳左衛門

同所

森田 彌三右衛門

用瀬邑 近江屋 儀左衛門

同家 多郎右衛門

同所 玉置屋 次郎兵衛

同郡 赤浪邑 久兵衛」

「<sup>(1704)</sup> 于前宝永元申歳孟夏當刹三代之座元宥山大和尚被修補而

至今年七十有二年於與豊」



- 1 名 称 絹本着色 三宝荒神像
- 2 員 数 1幅
- 3 所在の場所 鳥取市東町2丁目124番地（鳥取県立博物館寄託）
- 4 所 有 者 大安興寺
- 5 種 別 保護文化財 絵画、彫刻の部
- 6 基 準
  - 1 各時代の遺品のうち製作優秀で我が県の文化史上貴重なもの
  - 2 我が県の絵画・彫刻史上特に意義のある資料となるもの

## 7 説明

### （1）作品概要

【寸法】98.4×39.7 cm

【品質】絹本着色

【制作時期】鎌倉時代

### （2）作品の詳細

縦長画面に、岩座の上に坐す八面八臂の三宝荒神を表し、その周囲に八体の眷属を描く。八臂の持物については、左第一手は腹前で器状のものを捧げ、第二手は弓、第三手は宝棒、第四手は宝瓶ほうびょうを持つ。右第一手は筆、第二手は箭や、第三手は剣、第四手は三叉戟さんさげきを持つ。肉身は朱色で、墨線で描き起こす。八面は、大五面・小三面の二段からなり、すべて三目に表される。いずれも忿怒相だが、開口、閉口の別があるほか、真面しんめんは赤茶、脇面は緑・白・青・朱などに色分けされる。怒髪には金泥の毛筋が加えられる。背後には火炎を伴う頭光ずこうを負う。

筆線は平安後期仏画を踏襲した穏やかなもので、条帛じょうはくや裳にははていねいな斜格子きりかねの截金文様が施されている。暗緑色の岩座には、起伏を表す岩皴がんしゆんの描写もみられるが、やや粗雑でさほどの険しさは感じられない。

八体の眷属はいずれも立像で、肉身の色しんしき（身色）と持物がおのおの異なる。向って右下端は身色朱で持物ひとがたは人形、その左隣は身色緑で持物は弓箭、その上の眷属びやくくんは身色白群で持物は剣、さらに上の一体は身色赤茶で戟を持つ。向って左下端の眷属は身色褐色で、画面左下にうずくまる牛馬の手綱を持っているようだ。その右隣は身色赤で持物は剣、上の一体は身色緑で持物は斧、さらにその上は身色赤で松明を持つ。

なお、本作品の素材は通常の絵絹ではなくいわゆる平織ひらおりの絹を用いている。また、上端に13 cm、下端に4 cm、両端に2 cmほどの補絹がある。

### （3）評価

荒神は仏典には説かれておらず、修験道あるいは神仏習合を背景とした個性的な尊格である。俗には火の神ないし竈の神ともされる。一般に、仏・法・僧の三宝を守護する忿怒相の三宝荒神、神将形の子島荒神、慈悲相の如来荒神の三種の姿があるとされ、本作品は三宝荒神に当たる。古い絵画の作例はなく、中世になってから描かれるようになった。

本作品は伝統的な作風で、穏やかな線描や截金文様を用いた装飾感覚など、平安仏画の画調を残している点に特色がある。絵絹ではなく平織の絹を用いているのは、注文者の特異な意図を反映していると想定されるが、詳細は明らかではない。様式から鎌倉時代半ばころの制作と判断され、三宝荒神像としては全国的にも早い作例のひとつとみなされ、その点でも貴重である。

なお、旧袂背には宝永元年(1704)と安永4年(1772)の修補銘があり、江戸時代中頃までには大安興寺に伝来したことが確認できる。

本作品は、修理が行われており状態がよく、鳥取県立博物館に寄託されており、今後の保存・活用について問題がない。

#### (4) 参考

##### 【旧袂背裏書】

「荒神像 弘法大師筆」

<sup>(1772)</sup>

「皆安永四春三月大安興寺五世住宥元修覆之 料物四拾九匁七分

浄財施入之檀越

馬橋邑

森田 傳左衛門

鷹狩邑

森田 彌三右衛門

用瀬邑 近江屋 儀左衛門

同家 多郎右衛門

赤浪邑 久兵衛

玉置屋 次郎兵衛」

<sup>(1704)</sup>

「于前宝永元申ノ歳當山三代之寺務宥山大和尚被修補而

后至今年七十有二稔」





もくぞうふどうみょうおうざぞう  
木造不動明王坐像 説明資料

- 1 名 称 木造不動明王坐像
- 2 員 数 1 軀
- 3 所在の場所 鳥取県西伯郡大山町大山9 大山寺靈宝閣
- 4 所 有 者 宗教法人 大山寺
- 5 種 別 保護文化財 絵画、彫刻の部
- 6 基 準 1 各時代の遺品のうち製作優秀で我が県の文化史上貴重なもの  
2 我が県の絵画・彫刻史上特に意義のある資料となるもの

7 説 明

(1) 作品について

概要

木造 彩色 1 軀 像高 127.5 cm

本体：弘安8年(1285)銘 台座：弘安10年(1287)銘

詳細

・形状

(本体)

頭髮は、頭頂から後頭部にかけてまばら彫りとし、髮際に沿って巻髪を並べる。頭上に七  
沙髻しよけいを結び、その上に頂蓮ちやうれん(後補)を戴く。左耳前から左肩前に弁髪べんぱつを垂らす。天冠台てんかんだいをつ  
ける。額に水波相をあらわし、眉根を寄せ、瞶目しんもくする。上歯牙を下出する。三道をあらわす。  
条帛、折り返しつきの裙を着す。臂釧および腕釧をつける。顔をわずかに左に向け、左手は  
屈臂して膝上にて掌を上に向けて羂索を執る。右手は肘を大きく張り、屈臂して右脇腹前に  
て宝剣を握る。右足を外側にして結跏趺坐する。

(台座) 瑟瑟座しつしつざ

(光背) 火焰光背

・法量(単位: cm)

(本体)

総高 131.3 (頂蓮を含む)(4尺3寸3分)

像高 127.5 (髻まで)(4尺2寸1分)

髮際高 112.9 (3尺7寸3分)

頂 顎 42.1 (頂蓮を含まず) 44.5 (頂蓮を含む)

面長 28.5

面幅 27.1

耳張 37.1

|         |               |              |         |
|---------|---------------|--------------|---------|
| 面奥      | 40.0          |              |         |
| 胸奥      | 43.8 (左.条帛含む) | 40.1 (右)     |         |
| 腹奥      | 43.3 (条帛を含まず) | 48.1 (条帛を含む) |         |
| 肘張      | 111.5         |              |         |
| 膝張      | 110.6         |              |         |
| 膝高      | 23.8 (左)      | 23.9 (右)     |         |
| 坐奥      | 82.5 (左膝)     | 85.0 (右膝)    |         |
| 脇幅      | 57.0          |              |         |
| 耳長      | 21.5 (左)      | 21.5 (右)     |         |
| (台座) 高  | 72.2          | 幅 139.4      | 奥 129.5 |
| (光背) 総高 | 208.0         |              |         |

#### ・品質構造

(本体)

頭体幹部は針葉樹(ヒノキか)の一材製。木心は材のほぼ中央を通り、頭頂では沙髻の後ろ寄りに含む。両耳後方から体側半ばを通る線で前後に割矧ぐが、割矧面は木芯付近でやや乱れ、頭部では左は耳後ろの髪際あたり、右は首の後ろ寄りを通る。内割りを施す。膝前に一材、両腰脇に三角材各一材を矧ぐ。膝前は密度の高い広葉樹材(カツラか)で、木芯は両膝外側に含み、内割りを施す。三角材は各針葉樹で内割りなし。両腕はいずれも針葉樹材で、各肩、肘、臂釧の肘側の縁にて矧ぐ。頂蓮は別材製。瞳に別材を嵌入する。臂釧の連珠は菊座上にかかる部分を除いて別材製貼り付け。

表面の仕上げは、漆下地の上に白色地、彩色。現状の彩色は、肉身部は暗褐色、髪は赤褐色で白で毛筋を描く。条帛は表が赤褐色、裏が緑青。裙は暗褐色地に団文を散らす。天冠台の前面、弁髪の結び目、臂釧、腕釧は各漆箔仕上げとする。

#### ・保存状態

(本体)

両眉材亡失。

目の内側、両頬、鼻先、顎先に彫り直しがある。

膝前材、左手の肘より先、両瞳の嵌入材、左腰部の三角材と接する補材、そのほかの小補材のすべて、両腰の三角材を留める角材、および彩色は後補。

#### ・銘文

内体部背面 墨書

「 弘安八年〔乙酉〕奉建立之

(梵字五字)金剛佛子慶幸

佛師泉國住人智月房禅慶

大檀那有<sup>道</sup>經氏

」

一行目「乙酉」は割書。梵字五字は「ア」「ビ」「ラ」「ウン」「ケン」、すなわち胎蔵界大日如来真言である。弘安八年は西暦 1285 年、乙酉。

「道」と仮に読んだ部分については、「武」「岡」の可能性もある。

台座腰部正面材裏面 墨書

「勸進東楽房慶幸  
奉緑色不動明王一躰自弘安十年〔丁亥〕四月廿八日至于五月十二日終功  
繪佛師觀蓮」

二行目「丁亥」は割書。弘安十年は西暦 1287 年、丁亥。

とも一筆で、書体も弘安ごろのものとして違和感はない。

#### ・伝来

現在は大山寺霊宝閣に安置されるが、かつては常行堂に祀られていた。

#### (2) 伝来と意義

大山寺は火災や天災に度々見舞われてきたこともあって、本像の原所在は不明である。台座銘にみえる「東楽房」の名も少なくとも近世の資料には見受けられない。しかし像内墨書に名が見える「智月房禅慶」は、常行堂阿弥陀如来像の台座に残された弘安 9 年の修理銘にある「智月房」と同一人物とみられる。智月房は泉國住人の名乗りから土着の仏師ではなく、一時的に大山寺に滞在し寺内の仏像の整備に携わったと推測される。本像の弘安 8 年銘につながる造作もその一連の事績に連なると推測され、本像は遅くとも弘安 8 年以降、大山寺に伝来した可能性が高い。

大山は『新猿楽記』（11 世紀）や『梁塵秘抄』（12 世紀末）などにも触れられるように、平安時代より修験の行場として名をはせていた（大山町教育委員会、2011 年）。不動明王は修験において非常に重要視された尊格である。そもそも半丈六以上の不動明王の古像は全国的に見ても稀であるうえ、古くから修行の山として知られた大山にこのような像が伝来することは、まことに意義深い。

また先行研究において銘文の梵字 5 字は五大をあらわすア・バ・ラ・カ・キャと読まれてきたが、今回の調査で胎蔵界大日如来の真言ア・ビ・ラ・ウン・ケンであることが確認できた。不動明王は大日如来の使者あるいは教令輪身と位置付けられる尊格であり、本像の銘もそのような信仰に基づいて記されたことがうかがえる。

#### (3) 本像の制作年代にかかる課題

本像は、銘文を素直に読むならば、弘安 8 年（1285）に仏師智月房禅慶によって造像され、弘安 10 年に絵仏師観蓮によって彩色を施されたということになる。銘の記された面に削りなおしの痕跡はなく、筆跡も弘安頃のものとして不自然ではない。書き直しなども認められない。しかしながら、像の構造や表現には平安時代、とりわけ 10 世紀最末期から 11 世紀前半頃を思わせる大変古様な点がみられる。銘にある「建立」の語は、必ずしも新作に限らず、

修理に用いられることもある。よって、これらをどのように解釈するかが、本像の評価に際しての大きな課題である。先行研究においても制作年代について断定をみとらず（鳥取県立博物館、2004年）、現段階でいずれとも断定できるものではない。

指定候補に挙げるにあたって行った調査においては、次に記すとおり、総じて本像は11世紀初頭から前半に造像されたものと判断した。弘安8年の墨書銘は、修理銘であると解しておく。

#### ・構造について

頭体幹部を一材から、膝前を一材から木取りし、両腰脇に各一材の三角材を寄せるといふ、大きい材を使用した単純な木取りである。

注目されるのは、体幹部材の三角材との間の矧面が、膝前材との間の矧面と直交しないことである。これは本像の根幹材が、角材に製材される過程を経ていないことを示す。

正暦4年（993）年の納入品を持つ滋賀・善水寺薬師如来坐像は、像底からみると根幹材が台形に膝前材にくいこむような形になっている。ただし善水寺薬師像は背割りを施して背板をあてるのみであり、内割りについては本像のほうがるかに進んだ状況をしめす。薬師像と一具になる善水寺の四天王像をみると、この木取りが極力根幹材を大きく使い、足りない部分のみ材を寄せる発想に基づくことが明らかである。これはいわば個々の根幹材の大きさに基準を置いた木取りといえ、いったん角材に製材して材の個性を消してしまい、像の大きさから逆算して材を組み合わせる寄木造の発想とは根本的に異なる。また寛弘3年（1006）京都・同聚院不動明王坐像は、脚部に接する体幹部前面から腰脇を曲面とし、大きく内割りを施す。このような木取りは、寄木造成立前夜にあたる10世紀後半から11世紀初頭にしばしば認められる。

本像の木取りは、このような根幹材の丸太としての形状にあわせて膝前などの材を補っていく発想に基づきつつ、後世の寄木造のように腰脇のいわゆる三角材を別材で彫出する点、内割りを大きく施し頭体幹部を前後に割矧ぐ一木割矧造となる点で、善水寺薬師如来坐像のような構造が発展したものと位置付けられる。とするならば、こなれた内割りの仕様からして、10世紀最末期から11世紀初頭以降の作と推測される。

なお11世紀半ばに寄木造の技法が成立した後も、おおよそ等身以下の小ぶりな像については一木割矧造の技法が広く残る。しかし本像の大きさを勘案すると、寄木造の技法成立以降の時代であれば、特別の理由がない限り寄木造が採用された可能性が高い。もし本像の造像時期を11世紀後半以降と考える場合には、あえてこのような古様な構造を採用する背景には何らかの理由、例えば用材に聖性を読み取るといった信仰上の理由や、太い良材を手に入れるのが容易であったなどの環境上の理由などがあってしかるべきである。

#### ・表現上の特徴

側面からみたときに頭部が体部の前面に寄ること、腹前の条帛の先を三角形とし体側にむけて斜めに垂らす形状などをはじめ、個別の形状は平安時代11～12世紀頃にしばしば見いだされるものに通じる。

しかし一方で、全体をみたとき本像を特徴づける極端に量感を強調する表現は、平安時代後期のものとするには違和感がある。本像は、現状では両眉に貼りつけられていた小材は失われ、鼻頭、両頬、顎は肉の盛り上がり削り取られて低く整えられているが、両目の間や眉根の立体的な肉の盛り上がりなどを参考にするならば、当初はこれらの部分も相当に立体的な造形を見せていたはずである。一般に量感を強調した造形は平安時代前期、さもなくば鎌倉時代の特徴とされる。鎌倉時代においては、例えば筋肉表現や表情などに人間的な生々しさをみせ、衣などに過剰な動勢表現を伴うことが多い。本像の面部の表現は、当初の肉付きを復元的に考えるなら相当に過剰な印象を与えるが、体つきや着衣の表現はむしろ平安時代前期に通じる。

なお、先述の通り先行研究では、本像を平安時代の作とみなす論拠の一つとして、「衣文などの彫り口が意外に浅い」ことを挙げるが、厳密に観察すると浅い彫り口は主に膝前材部にみられ、頭体幹部材には見出しがたい。膝前材は構造的に古様であるが、立体感に欠けた硬く平板な彫り口は、明らかに頭体幹部とは異質である。体幹部材が針葉樹であるのに対し、膝前材は広葉樹と、樹種も異なっている。彩色を見ると、現状の彩色の下層に古い彩色が残されているが、体幹部材の裾では緑青地に輪宝を散らすというものであり、団文は新旧いずれの彩色においても同サイズである。対して膝前材の裾の団文は、体幹部材側のものより大ぶりで意匠も異なる。以上より、膝前材の制作時期が、体幹部材と異なることは明らかである。

体幹部材と膝前材の接合に不自然な点や矛盾はないことから、後世に他像の膝前材が組み合わされた可能性は否定され、後世の修理に際して補われたものと考えてよい。あるいは膝前材が補われた際に、面部の極端に立体的な表現を嫌って、眉や頬の先、顎などを削り、量感を減じるように彫り整えたのではないかと推測される。

#### ・ 図像上の特徴

左手に羂索を、右手に剣を手にし、軽く左を見込む姿は、不動明王の基本を踏まえる。ただし頭髪表現には珍しい形がみてとられる。

不動明王の頭髪には、大きく分けて総髪とする場合と巻髪にする場合がある。本像は一見巻髪のようなのであるが、よく見ると頭頂から後頭部にかけては総髪の場合のようにまばら彫りとし、髪際に沿って巻髪を並べている。総髪と巻髪を組み合わせる例は、富山・日石寺の不動明王二童子磨崖仏（平安時代後期）や、奈良・不退寺像の五大明王中の不動明王坐像（鎌倉時代）などに確認されるものの、かなり少数である。さらに一般に不動明王の巻髪は、毛の根元からまず上方に立ち上がり、外側に下降する向きで巻く。本像のように、まず根本から垂下し、掬いあげるような向きに巻く例は、佐賀・永寿寺の不動明王二童子像のうちの不動明王坐像などの例はあるとはいえ、極めて稀である。

10世紀から11世紀にかけて、例えば岡山・勇山寺の不動明王坐像が、基本的には総髪でありながら正面の髪際を巻髪とし顔の両脇に炎髪風の髪の流れを表し、さらに面部に十九観への接近をみせるといったように、不動明王の図像に関して様々な試みが行われていた（松岡、2015年）。あるいは本像の頭髪表現も、そういったさまざまな図像的な試みが行われた

動向の中に位置付けることができる。

#### (4) 評価

制作年代の評価には課題を残すものの、銘文にある弘安8年(1285)以前の作であることは明らかである。鎌倉時代以前にさかのぼる半丈六以上の不動明王像は全国的に見ても稀である。本像はその貴重な一例であり、本体および台座に弘安年間の銘を残す点も貴重である。

不動明王は修験において重要視された尊格である。修験の山として古来から名をはせてきた大山周辺の歴史や信仰を考える上でも非常に重要な作例といえる。度重なる火災や廃仏毀釈などを越えて、台座、光背も含めた一具が大山寺に残存する意義は大きい。

よって、鳥取県指定文化財に指定し保護するにふさわしい価値を有するものと判断される。

#### 【参考文献】

鳥取県立博物館編『鳥取県の仏像調査報告書』2004年

大山町教育委員会『大山僧房跡調査報告書』大山町文化財発掘調査報告書第12集、2011年

松岡久美子「聖護院とその周辺の不動明王像」(龍谷ミュージアム『聖護院門跡の名宝』図録、2015年)



## 1 名 称 染織

### 2 保 持 者

- (1) 氏 名 山下 健
- (2) 生年月日 1955年1月生
- (3) 住 所 鳥取市青谷町
- (4) 略 歴
  - 1955 鳥取市青谷町に生まれる
  - 1973 大因州製紙協業組合に入社  
柳悦孝工房と柳悦博工房で染織および紙布を学ぶ(～76年)
  - 1976 第50回国展工芸部 初出品(以降毎年出品)、50周年記念賞受賞
  - 1977 大因州製紙協業組合を退社、染織の道を志す
  - 1995 国画会会友推挙
  - 1999 第73回国展工芸部 会友優作賞受賞
  - 2001 国画会会員推挙

### 3 基 準

- (1) 無形文化財(工芸技術関係)
  - 陶芸、染織、漆芸、金工その他の工芸技術のうち次の各号の一に該当するもの
  - 芸術上特に価値の高いもの
  - 工芸史上特に重要な地位を占めるもの
- (2) 無形文化財の保持者(工芸技術関係)
  - 無形文化財に指定される工芸技術を高度に体得している者
  - 工芸技術を正しく体得し、かつ、これに精通している者

### 4 説 明

#### (1) 染織

染織は、無地の布に染料で色や模様を表す「染」と、染料で染めた糸を縦横に組み合わせて布を作る「織」を合わせた言葉である。染が織と並んで独立した芸術ないし産業分野を形成しているのは日本くらいのものである。他の国や地域では織の前に糸を染めるということはあるが、染が独立してものづくりの分野を形成することはほとんどない。中世ヨーロッパの木版染、ジャワのパティックなど、わずかな例があるのみである。日本では友禅、型染、江戸小紋、長板中型、紅型など染が華麗な世界を作り出し、絹織(錦、羅、紗、絹、生絹、仙台平・米沢平など)、紬織、絣織、麻織(上布、縮)、綿織、錦織、綴れ織りなど色とりどりのものから渋い感覚のものまで非常に幅広いものが作られている。

#### (2) 保持者・山下健

保持者として、鳥取市青谷町の山下健氏が挙げられる。絣織を主とし、その一種の応用と



も言うべき板締め染という特徴的な染も行う。

作品の特徴は、視覚的には、寄せては返す波のようにダイナミックに反復する紋様や、大胆に対比されたインパクトの強い配色を見せる一方、モノクロームな配色とロートン織で、落ち着いたデザインの帯地を織る側面もある。

手触りとしては、生絹にしても、紙布用の紙縫りにしても、素材の質感や風合いを生かす方法で染め、織り上げている。力強い布と繊細な布、その双方に山下の作家性はにじみ出ている。

## 【制作工程】

### 1．絹糸精錬

糸に光沢を出すために製錬する。藁灰で煮るのが一番よい。大きな金盥に穴の開いた小型の金盥を乗せ、そこで藁を焼く。そこに沸騰したお湯をかけ、灰汁を含む水を取る。最終的に木綿の布で濾す。新しい藁であれば灰汁が強いので糸と同量、古ければ1.2以上などと状態によって見極める。絹糸は灰汁に弱いため、漬け過ぎるとカサカサになってしまう。この作業をする作家は減少している。

### 2．染色

#### 絣織

##### 縦糸括り

横糸は6m。帯一本分に少し余らせて見本用の布とするのに十分な長さ。色を染めない部分にチョコペン（濡れると消えるもの）で目印をつけ、セロファンを三重に巻く。これは幅の広いところを括るときに、染める際折れて染料が中に入り込むのを防ぐために行う。スーパーなどで傘を入れるビニール袋が巻きやすく、熱にも強いので便利。この上からビニールテープできつく縛り、染料が染み込まないようにする。

##### 横糸括り

作成するものによって、糸を巻く糸巻きの幅（例えば1尺幅、1周で2尺になる）を替える。その幅は分単位の微妙なもので、山下氏はそれぞれの幅の心棒をつくっているが、柳悦孝先生はひとつで対応できるような器具をつくってしまった。そういうところが先生のすごいところ。

弓浜の絵絣とは異なり、沖縄によくある手結いの絣。横糸は10本（巻）で帯1本分になる。今回作成しているのは、1巻は糸巻きで40周（80本（尺））。1巻が管に巻くときにちょうど良い大きさ。2本をまとめて括り台にかけて、縦糸と同様にビニールを巻いていく。

##### 染色 浸け染

染料は極力天然素材を用いるように心がけている。絹はアルカリに弱く酸に強いので、化学染料を使う場合は酸性を選ぶ。調査例はカリヤス。括って染める箇所と同量かやや多めのカリヤスを30～40分沸騰させて濾し、液体を抽出する。液量も含め、分量はすべて計算する。染めたときに斑をつくりたくないの、液量は大目に計算している。

最初に糸をミョウバンで焙煎して、それを定着させるためにアンモニアの薄目液につけ、水でさっとすすいだ後染料につける。染料を熱しながら染め（約20分）、括ったところは染料が入りにくいので、手を付けられる熱さのうちは糸を揉んで染める。絹の生糸は染料を沸騰させたくないの、80くらいまでの熱さで煮る。生糸は熱くし過ぎるとシャリシャリしたセリシンの硬さが溶けて軟らかくなり、夏帯のシャキッとした感じがなくなってしまう。

そのほかは沸騰した染料につけて染めている。温度を高くして煮ることで色は定着する。

例えば植物染料では、<sup>やしゅ</sup>矢車は薄茶色、ベージュ、灰色などの染料となるが、2染目のものは非常に良い銀色のような色となる。

植物染料の良いところは、退色した時に全体がきれいに退色するため違和感が出ないところ。化学染料では組み合わせられた色のなかでそれぞれ退色速度が違いため、全く異なる色味が出てくる。染めることにおいては、化学染料は回数が少なくて済むので、糸を傷めないところが良い。

### 板締め染

湿らせた仮織りした布（木綿の横糸を粗く通し（幅1～2cm）仮括りした縦糸）を、縦に二つ折りして端をハリテで固定。折り目がちょうど真ん中に来るように、中央には目印として黄色い糸で織っている。半分に折れたらハリテを外し、板を挟みながら布を端から屏風折りしていく。板は高さが2寸6分～3寸2分まであり、模様によって使い分ける。2寸8分が使用頻度高い。板はアクリル板などいろいろ試したが、水を適度に吸ったりするので段ボールが一番良い。両長辺にはテープが貼ってある。

折れたら、両面の着色させない部分にさらしを当て、その上に棒状板を当ててビニールひもで締める。

板締めした布は、熱した染料につけては取り出し、ひだを開きながら染み込み具合を確認する作業を4回ほど繰り返す。酸性液は吸収が良いが、普通の糸の場合酢酸を1リットル当たり3～4cc入れて一気に染める。しかし、板締めの場合は同様にすると外側と内側で染み込み具合が異なるため、酢酸は5リットルに対し2ccしか入れていない。

色が染まったら水洗いし、浸透剤や酸など余分なものを落とす。その後たんでフノリをつける。フノリつけはこの後の作業において糸がこすれていくことから表面を保護するため、すべての糸に対して行う。布を広げて一晩乾かす。

箆通しをした後、設計図に従ってずらし台に糸を通し、仮糸を取りながら器具をゆっくり引いていくとともに、布を巻いていく。最後は端を切り箆およびずらし台から布を外し、布の端を同じ長さにそろえて結わえる。

仮織りで横糸を粗くしているのは、しっかり織り上げた布では糸同士が密につまり、色が染まりにくいから。布を板締めする技法もあるが、仮織りしている方が圧倒的に染料が糸に入っていくし、糸も色も鮮明になるので、この方法を実施している。また、染料の色は括りよりも制限される。それは、板で締めている内側に入っていくやすいものとそうでないものがあるためである。

板締めは山下氏の作品に占める割合としてはそれほど多くはない。ただこれをしている人は少ないし、山下氏の作品を支持してくれる人がある。

### 3. 織り

使用する高機は「バツタン」など、織るものによってかえる。

綜統そうどう通しは1本ずつ、箆（おさ）通しは2本をひとつにして箆に通す。帯の場合760本だが、着物になると1,300本になる。綜統に通すときは出来上がりの模様に合わせて、通す配列を変える。複雑な模様ほど通し方も複雑になる。デザインが出来上がっていないと糸は通せない。

帯は巻いてしまえばほとんどが見えなくなってしまうため、見えるところだけ模様を入れ、隠れる部分は無地とする場合が圧倒的に多い。ただ山下氏は、「見えないからこそ見えい部分もちゃんとするんだ」というこだわりを持つ。

#### 【特徴・評価】

山下氏は、植物染料や化学染料、多様な機織り技術を駆使して、布質の面でもデザインの面でも高く評価される仕事を続けてきた染織家である。また、地元青谷町の特産である和紙を使用した紙布の魅力を探求し、染織界に提示していくことをライフワークとしている。

絣織と板締染による織によって、あくまでも伝統的な絣織模様を基盤にしながら、例えば立涌模様を斜行させるアレンジを施したり、文様の繰り返しをより多く重層させたり、個性的な作家独自の模様世界を作り出している。そしてそれを明色と淡色・暗色、寒色と暖色を駆使して展開し、非常に幅広い豊かな作風を作り出す点に特徴がある。

「同じものができなければ、本物ではない」という柳悦孝・悦博両氏の教えを受け継ぎ、糸作りから染め、そして織りとすべての工程をこなし作品づくりを進める山下氏は、活動の拠点である国画会において重要な位置を占めるだけでなく、県内染織界並に現代日本染織界においても第一人者と評価することができる。

#### 【参考文献】

三浦 努編 2016 『コウゲイノモリへ - 探求する工芸家たち』 鳥取県立博物館

## 1 名 称 紙布

### 2 保 持 者

- (1) 氏 名 山下 健
- (2) 生年月日 1955年1月生
- (3) 住 所 鳥取市青谷町
- (4) 略 歴
  - 1955 鳥取市青谷町に生まれる
  - 1973 大因州製紙協業組合に入社  
柳悦孝工房と柳悦博工房で染織および紙布を学ぶ(～76年)
  - 1976 第50回国展工芸部 初出品(以降毎年出品)、50周年記念賞受賞
  - 1977 大因州製紙協業組合を退社、染織の道を志す
  - 1995 国画会会友推挙
  - 1999 第73回国展工芸部 会友優作賞受賞
  - 2001 国画会会員推挙

### 3 基 準

- (1) 無形文化財(工芸技術関係)
  - 陶芸、染織、漆芸、金工その他の工芸技術のうち次の各号の一に該当するもの
  - 芸術上特に価値の高いもの
  - 工芸史上特に重要な地位を占めるもの
- (2) 無形文化財の保持者(工芸技術関係)
  - 無形文化財に指定される工芸技術を高度に体得している者
  - 工芸技術を正しく体得し、かつ、これに精通している者

### 4 説 明

#### (1) 紙布

紙布は、紙糸を材料として織り上げた布である。

紙糸を縦糸、横糸の両方に使用した物を諸紙布と言い、縦糸に絹・綿・麻糸を使い、横糸に紙糸を使用した物を絹紙布・綿紙布・麻紙布と言う。紙をそのまま使用した紙衣と異なっていて軽くて肌触りが良く、特に女性の夏の衣料用として使用された。

紙布は江戸時代になってから生産され、『毛吹草』や『諸国万買物調方記』、『和漢三才図会』には、陸奥の白石(現在の宮城県白石市)で生産されていたと記されている。仙台藩伊達氏に仕え、白石城を任された片倉家の保護の元、和紙、紙子、紙布づくりが行われた。幕府への献上品にもなり、明治期には日本が国として初めて参加した万博、ウィーン万博で進歩賞を受賞し、内国勸業博覧会、東京大正博覧化などで出品、受賞を繰り返した。大正10年に絶えてしまうが、昭和16年、片倉15代信光などによって復興させられる。

その後は片倉家の周辺で細々と伝えられてきたが、茨城県の櫻井貞子が片倉家15代信光か

ら遺品や文書を提供され、1970年代後半に復元に成功した。白石紙布の伝統を櫻井に伝えたのは柳悦孝で、同じく茨城県の梶山和世（女子美術大学での柳の教え子）も柳の教えで紙布を始め、櫻井と協力をして制作に勤しんだ。また共に柳に県内産である西の内和紙の存在を教えられ、作品の素材としている。櫻井は70年代末から日本伝統工芸展に紙布を出品しはじめ、現在では30代の若い後継者も育っている。以下に述べる山下健も70年代から紙布制作を始め、1976（昭和51）年から国展工芸部に出品し始めている。近代的な意味での作家的紙布制作は、伝統工芸展、国展など、限られた範囲のものであり、たいへん希少かつ貴重なものといえることができる。

ここで保持者として取り上げる山下健もやはり柳悦孝の教えてによって紙布に携わるようになった。県産である青谷和紙を用いている点も前記の例と近いものがある。言い換えると山下は、白石紙布から柳、櫻井といった系譜に連なって紙布制作の思想、技法などを学び受け継いできたといえることができる。

## （2）保持者・山下健

保持者として、鳥取市青谷町の山下健氏が挙げられる。

作品の特徴は、視覚的には、寄せては返す波のようにダイナミックに反復する紋様や、大胆に対比されたインパクトの強い配色を見せる一方、モノクロームな配色とロートン織で、落ち着いたデザインの帯地を織る側面もある。

手触りとしては、生絹にしても、長谷川憲人氏（因州青谷こうぞ紙手漉き和紙保存会会長）が漉いた楮紙から一本一本丁寧につくる紙布用の紙縲りにしても、素材の質感や風合いを生かす方法で染め、織り上げている。力強い布と繊細な布、その双方に山下の作家性はにじみ出ている。

## 【制作工程】

### 1．紙糸の制作

紙の材料は長谷川憲人氏から購入している。

全紙（2×3尺）を半裁し、左右両端を2cmほど残して平均1cmほどの幅に短冊状に切っていく（20枚を重ねて切る。これ以上だと切りにくくなる）。切ったものは一度揉んで、クチャクチャに軟らかくする。次にこれをほぐしながらのばし、1本につなぎ合わせていく。つなぎ目は紙の端を台形状にカットし、両端をなめて張り合わせる。

これを紡毛機につなぎ、縲りをかけていく。短冊状に切ったときに折り返し部分の頭を山形にカットするのは、縲りをかけた際に玉状に膨らむのを防ぐため。紡毛機は綿の糸紡ぎ器とは原理が違い、糸を引っ張るのに対し、それに引っ張られないように抗すことで空回りさせて縲りをかけている。

紙糸は綿から糸にするよりも制作工程が多い。紙糸には紙独特の温かさとか軽さなど独特のものがある。帯一本で横糸だけで使った場合、全紙30枚ぐらいを使う。重さは帯1反で330グラムぐらいになる。

### 2．染織

基本的には絹糸と同じ。ただ材質は木綿に近いので、酸性の液体は染まりにくい。

### 3. 織り

経糸は絹を使うことで、横糸の紙糸が生きてくる。経糸を木綿にすると紙が負けてしまう。

#### 【特徴・評価】

山下氏は、植物染料や化学染料、多様な機織り技術を駆使して、布質の面でもデザインの面でも高く評価される仕事を続けてきた染織家である。さらに地元青谷町の特産である和紙を使用した紙布の魅力を探求し、染織界に提示していくことをライフワークとしている。

染織家としての経験と技術の上に立ち、和紙の吟味による適切な素材選択、高度な紙の糸づくりを総合して、繊細で暖かな風合いを持つ紙布を制作してきた。紙の糸ならではのさらっとした質感と絹などの通常の糸を融合した独特の異質な質感の布である。これまで制作してきた通常の織物の模様スタイルと軌を一にした紺模様を基本とし、伝統的な模様をより力動的にアレンジしたり、幾何学的な構築的要素を強調したり、通常の織物とは少し違うより個性的で現代的な模様世界を作り出している。

柳宗悦が取材して以来、民芸的環境では紙布を高く評価してきたが、それを甥の悦孝が桜井貞子や山下健に伝えてきた。それを独力でマスターし山下ならではのスタイルを持った紙布表現を作り上げた。現代を代表する紙布作家ということができる。

#### 【参考文献】

片倉 信光 1988 『白石和紙 紙布 紙衣』慶友社

三浦 努編 2016 『コウゲイノモリへ - 探求する工芸家たち』鳥取県立博物館

ちず りんぎょうかんけいしりょう  
智頭の林業関係資料 説明資料

- |   |       |   |
|---|-------|---|
| 1 | 名 称   | 智頭の林業関係資料   |
| 2 | 員 数   | 213点  |
| 3 | 所在の場所 | 智頭町郷原 238 (旧山形小学校内智頭林業資料展示室) 智頭町福原<br>智頭町智頭   |
| 4 | 所 有 者 | 智頭町山形地区振興協議会 個人   |
| 5 | 種 別   | 有形民俗文化財   |
| 6 | 基 準   | 1 次に掲げる有形の民俗文化財のうちその形様、製作技法、用法等において我が県民の基盤的な生活文化の特色を示すもので典型的なもの<br>(2) 生産、生業に用いられるもの<br>2 前項各号に掲げる有形の民俗文化財の収集でその目的、内容等が次の各号の一に該当し、特に重要なもの<br>(1) 歴史的変遷を示すもの<br>(2) 時代的特色を示すもの<br>(3) 地域的特色を示すもの |

7 説 明

(1) 資料の来歴

智頭町は、樹齢400年以上の「慶長杉」(人工林)をはじめとした植樹の歴史があり、吉野(奈良)や北山(京都)にならぶ歴史ある林業地である。建築材としては、大径木(根本から1.2mの高さの幹まわりが90cm以上の木。樹齢60~100年くらい)を多く有し、大径木から取る柱目板(節の少ない丸太からとる。板目材の10分の1程度しか取れない)も一定の量を出荷できるという特徴を持った土地である。また木質や美しさも評価されており内装材としても利用されている(京都 祇園甲部歌舞練場の貼り板など)。

本資料は、智頭町郷原にある旧山形小学校智頭林業資料展示室に所蔵されている林業用具を核とした当該地域の林業に関する資料、並びにその林業と並行して行われてきた自然栽培等に関連する資料からなる資料群である。

本資料の中心となる180点ほどの資料を所蔵する旧山形小学校は、昭和17年に建てられた2階建の木造校舎で国登録有形文化財である(平成17年7月登録:有形文化財(建造物))。同小学校が平成24年3月に閉校後、山形地区振興協議会が中心となって智頭林業資料展示室を整備(平成27年3月)、地域での活用や小中学生にむけた教育普及(林業体験学習)を目的に林業の道具や山仕事に関する道具を収集・収蔵し、現在に至っている。同展示室には沖ノ山森林鉄道のジオラマ模型(山形地区の方々作成)や、山仕事の様子を再現した「ふるさとかかし」などの展示品とともに200点以上の資料が収蔵・展示されている。

この展示室に収集された用具の種類としてはいわゆる「ヤマ」で使われる林業用具が中心であるが、ほかにも、製材加工(丸太から板や角材に加工する)、流通、測量や、林業と並行してヤマで行っていた複合的な自然栽培(黄連栽培)などの用具も収集されている。林業とは50年以上の年月を1サイクルとする長期的な産業であり、伐採、植え付け、下草刈り、枝

打ち、間伐といった樹木の収穫・育成とその更新のための維持管理を主とした生産産業であり、同展示室はこれらに関する資料が揃った専門的博物館としての機能を持っているといえよう。

これら同展示室に収蔵された資料以外にも同町内には、林業と並行してヤマで行っていた自然栽培（黄連栽培）の用具である黄連採集加工用具が個人蔵（智頭町福原。智頭町智頭）として存在している（個人の内容は現在も自宅敷地内の庭にて黄連を栽培されている方と薬草問屋の方）。

## （２）資料の特色

本資料群は林業関係用具のうち、智頭林業資料展示室所蔵の林業用具 173 点、ならびに林業と並行して行われてきた自然栽培（黄連栽培など）の用具 40 点（内、智頭林業資料展示室所蔵 3 点、智頭町福原の個人蔵 16 点、智頭町智頭の個人蔵 21 点）より構成される。

### 林業用具

林業は 1 サイクルが 50 年以上のサイクルであり、林業に携わる人々といった場合でも、「山の木を売って生活する人」である林業家や山主、「木を伐ったり育てたりする人」である林業従事者、また、おもに自分の持ち山で伐採から搬出・出荷まで自力で行う自伐林家や森林組合、林業会社などの経営の違いなど、その業務形態によって分類され山や森で活動する人々も様々である。

表 1 林業の作業工程

|       |  |
|-------|--|
| 主伐    | 成長した樹木（立木）を伐り枝葉を払って適当な長さに伐る（玉伐り）                       |
| 集材・搬出 | 造材された樹木を林道や土場など市場等に運材する場所まで集める                         |
| 地ごしらえ | 伐採後に植え付けをするため、伐採木の枝葉や残木を取り除き整地する                       |
| 植え付け  | 苗木を一定の間隔で植える（同時に獣害よけのための保護カバー等を設置）                     |
| 下刈り   | 苗木よりも早く成長する雑草木などの刈払い                                   |
| 除伐・間伐 | 育成させたい樹木の成長を妨げる他の樹木の伐採（…除伐）。樹木の成長とともに密集した一部の樹木を伐採（…間伐） |
| 枝打ち   | 節のない良質材を育成させるために下枝の伐採                                  |
| 製材    | 丸太を板や角材に加工する   |

表 2 林業用具の種類と点数

|            |       |
|------------|-------|
| 主伐         | 5 1   |
| 集材・搬出      | 2 6   |
| 地ごしらえ      | 5     |
| 植え付け       | 4     |
| 下刈り        | 5     |
| 除伐・間伐      | 2     |
| 枝打ち        | 1 0   |
| 製材         | 1 9   |
| 製品・加工      | 2 2   |
| その他        |       |
| 作業全般に関わるモノ | 2 4   |
| 道具修繕       | 3     |
| 原材料など      | 2     |
| 合計         | 1 7 3 |

（山形地区振興協議会 2016 『ふるさとに学ぶ林業副読本』を参考）



このような様々な人々が携わる林業であるが、その作業工程は大きく8つの工程(表1参照)に分けられ、当資料群の内、林業用具としてはそれぞれの工程に対応した用具や、製品自体、その他などに分けることができる(表2参照)。

これらのうち、特に特徴的な資料としては次の六つがあげられる。

「主伐」に分類されるコクイン(刻印)は、切る予定の杉に印刻をする際に使用される。刻印は切る杉の下方の地面に近い部分を削り、そこに墨をつけて印をつける。この際、なるべく根元を切れるように下方につける。柄部分はものさしになっている(現用品、写真1、No.70)。



写真1 コクイン(No.70)

尚、コクインは間伐用のモノも存在し、伐採前に木の根部分をナタで削り、そこへ墨壺の墨を付けて印を打つ。この際の場合も木を切る場所より下に打つ。これは主に杉の売主が行う(No.25)。



写真2 上記コクインの印刻部分

「集材・搬出」に分類される「イカダヨキ(筏よき)」は、製品である木材を搬出する際に、木材自身を筏にして川に流した「筏流し」の際に使われた。この筏流しはおおよそ大正半ばまで行われていたと言われている。イカダヨキは筏を組むためのカズラ(葛)を通す穴を開ける時に使用された。すでに筏流しを経験、あるいは見たことがあるという人もなく、また、写真などの二次的資料もない状況下において、このイカダヨキは筏流しを知る唯一の資料とっていいだろう(写真3、No.88)。



写真3 イカダヨキ(No.88)

「集材・搬出」に分類される森林鉄道の機関車とトロッコは、林業が特に活発であった頃を偲ぶものとしてシンボリックな意味合いのある資料である。沖ノ山森林鉄道は智頭町芦津を起点に沖ノ山(標高1318m)の山麓へと伸びていた森林鉄道(軌道。本線延長は16km)であり、大正11年に施設がはじまり昭和42年頃まで使われていた鉄道である。現在の流通事情



写真4 機関車とトロッコ(No.97)

から想起される機関車による運搬とは違って、機関車が木材を運ぶのではなく、機関車が空のトロッコを押し上げて山を登り、木材を積んだトロッコが自重で山を下りることが中心であった。本資料の機関車は鉄道が廃止されたあとも山中に放置されていたものを昭和 58 年に山形小学校内交通公園に設置、平成 25 年に山形財産区議会や地域のボランティアによって風雨をよける屋根がつけられ現在に至ったものである(現在は物理的な事情から機関車が木材を積んだトロッコを牽引している形で展示されている。写真 4、No.97)。

「地ごしらえ」に分類される根曲り竹用ハサミは、倉吉八島製。地ごしらえの際、他の雑草と同様に鎌で根曲がり竹を切ると鎌がだめになるため、根曲がり竹専用の鋏として特別に製作したモノ(昭和 25 年頃製作、写真 5、No.1)。

「植え付け」に分類される苗袋は下方に苗を取り出す穴が空けてある(苗袋自体は既成品、写真 6、No.9)。

「枝打ち」に分類される枝打ちナタは、その刃に「土佐の宗石作」と銘がある鉞である。現在は軽量であるアルミ製のナタを主に用いており、当資料のような鉄製のナタは重いのであまり使われずいわゆる「古いもの」だそうである。宗石刃物製作所は高知県香美市土佐山田町植 1060-1 に現存している。鳥取県の林業と高知県の鉄刃物との流通やその関係性を示す資料である(写真 7、No.17)。

他にも、本資料群においては、林業のメインと考えられる鋸や斧、チェーンソーなどは勿論、それら諸道具を修繕するための目立て用のヤスリや目立て台(森林鉄道のレールを利用)、弁当箱、板笠など作業全般にまつわる用具などがあ



写真 5 根曲り竹用ハサミ (No.1)



写真 6 苗袋 (No.9)



写真 7 枝打ちナタ (No.17)



写真 8 上記ナタの刻印「土佐の宗石作」

り、林業に関わる作業の全般における総合的な資料が整っているといえよう。

### 林業と並行して行われてきた自然栽培（黄連栽培）の用具

黄連は、キンポウゲ科オウレン属の常緑の多年草で、その根茎が健胃や整腸の漢方薬として現在も需要がある。日本における産地は主に「越前黄連」（福井県）「丹波黄連」（京都府中西部）「因州黄連」（鳥取県）で、因州黄連はほとんどが現在の智頭町で採取・栽培されてきた（『智頭町誌』）。その栽培は畑のほかに、育成中の人工林（杉）の苗間や杉林下において種の直播をして行われてきた（自然栽培）。智頭町福原の個人蔵の黄連栽培の用具は、主に昭和30年代から現在に至るまで使用、あるいは使用された用具である（表3参照）。

鳥取県東部においては、寛政7（1795）年に記された『因幡志』に、自生の黄連を薬草として用い、また他国商人が買い付けを行っていたという記載がある。また、昭和12年2月の『鳥取新報』には「林産副業生産量調査」として「黄連九九〇〇斤、一万五千元」とあり、その「町村別林産副業生産番付」には東の関脇として「黄連・六千元・山郷」と宣伝されている。このように智頭町は近世から続く黄連栽培の適地であり、県内生産量のほとんどを占めていたという土地である。この黄連栽培は主に育成中の人工林（杉）の地面（斜面）に種の直播をして行われてきた（自然栽培）。

また山では黄連の他にも、ダイコンやアズキの栽培なども行われた。杉の苗を植える準備作業として、雑木林を伐採して、下草を刈り、火入れをして山焼きをする場合があるが（この場合、雑木林・下草伐採から山焼きまでを含めて地ごしらえ）その際、育成中の杉苗が小さい期間に、その苗間を利用してダイコンやアズキを栽培したという（このダイコンやアズキの植え付



写真9：左 黄連（毛付き）



写真10：右 黄連（毛を取った根）

表3 林業と並行して行われてきた自然栽培（黄連栽培）の用具の種類と点数根

|       |    |
|-------|----|
| 採集    | 4  |
| 運搬・搬出 | 3  |
| 調整    | 29 |
| 計量・出荷 | 2  |
| 保守管理  | 1  |
| 製品    | 1  |
| 合計    | 40 |

（櫻村賢二 2017「鳥取県智頭町の黄連採集加工用具について（その一）」

「鳥取県智頭町の黄連採集加工用具について（その二）」を参考）

けには杉苗の植え付けに用いるトウグワ（写真11）を使ったという。この山焼きの後にその灰を肥料として作物を栽培することとはいわゆる焼畑農業であり、林業と農業（焼畑農業）の複合的な生産をここに見ることが出来る。智頭町では、焼畑をカリヨウと呼び、カリヨウで栽培したダイコンをカリヨウダイコンと呼んでいる（智頭町板井原地区のカリヨウダイコンを使ったタクアン「板井原ゴウコ」が有名）。



写真11 トウグワ（No.8）

林業経営とそのプロセスの中で、黄連栽培やダイコン・アズキなどの焼畑農業が行われていることなど、本調書では「自然栽培（黄連栽培）」と分類しているが、それらの用具の性格や内容は多面的であって、黄連栽培はその複合的・多面的性格の一端を示した事例の一つであるといえよう。

### （3）資料の価値

智頭町の林業関係資料は、同地域における近現代の林業の変遷とその作業工程を体系的に示す資料群である。なかでも智頭林業資料展示室にある林業用具は、山形地区振興協議会を中心に管理・利活用されている資料であって、智頭で行われてきた林業に関する情報が豊富な資料である。また、これらの用具は、同会主導の下、自身の体験や古老からの聞き取り、智頭町森林組合所蔵の戦後期を中心とした映像資料（8mmフィルム）や写真資料などを調査することによって、使用法や用具の普及の経緯、当時の智頭町の姿など、これらが使われた時代背景といったさらなる情報がそこに追加補充される可能性があることは特筆されよう。

これら林業用具と共に、同じヤマという場所で行われた複合的生業体制（具体的には並行して行われるヤマにおける黄連栽培ならびに焼畑農業など）の用具を林業用具と共に林業関係資料とし捉えることは、産業分類上の「林業」といった職業的活動分類にとらわれない大きな意味での「山仕事」に対する総体的な理解につながり、木を伐る・育てるだけではない複合的な生産を行っていたという実態や歴史を知る資料としてその価値が高い。このような複合的生業体制の用具をも包括した林業関係の資料群は山陰地方でも他に類例がなく、今後さらなる調査研究を進めることにより、全国的な比較研究の展開が期待される。

なお、これらの資料は、前述した山形地区振興協議会によって地域の歴史・文化を継承するために、地元の小中学校の生徒などを対象とした林業体験学習等に利活用され、また、それら活動に伴う展示・資料収集といった継続的な資料の利活用ならびに管理が行われている。こうした地域住民による積極的な資料の利用と継承への熱意・実践も本資料群の価値を高めている。

### 【参考文献】

智頭町誌編さん委員会 2000 『智頭町誌』

樫村賢二 2017 「鳥取県智頭町の黄連採集加工用具について（その一）」『民具マンスリー』

第 49 卷 11 号 神奈川大学日本常民文化研究所

櫻村賢二 「鳥取県智頭町の黄連採集加工用具について(その二)」『民具マンスリー』第

50 卷 10 号 神奈川大学日本常民文化研究所

山形地区振興協議会 2016 『ふるさとに学ぶ 林業副読本』

| No | 作業工程大分類    | 作業工程<br>中分類 | 資料名      | シリョウメイ    | 点<br>数 | 長さ<br>(ミリ) | 巾   | 高さ    | 備考  | 所有者       |
|----|------------|-------------|----------|-----------|--------|------------|-----|-------|---|-----------|
| 1  | 00地ごしらえ    |             | 根曲り竹用ハサミ |           | 1      | 775        | 170 | 35    | 倉吉八島製。鎌でねまがり竹を切ると鎌がだめになるので製作した。昭和25年頃製作。                              | 山形地区振興協議会 |
| 2  | 00地ごしらえ    |             | ナタ       |           | 1      | 383        | 9   | 70    | ナタ(刃先に鼻があるタイプ)。安全のために鼻がある。身を切らない。鼻でとおくにあるものをよせることもある。山の必需品。大藤の陰刻。     | 山形地区振興協議会 |
| 3  | 00地ごしらえ    |             | 除伐用オオガマ  |           | 1      | 1560       | 5   | 250   | ビニールホースの刃先カバーあり。柄の太さ30。   | 山形地区振興協議会 |
| 4  | 00地ごしらえ    |             | 除伐用オオガマ  |           | 1      | 1565       | 5   | 170   | 柄の太さ30。   | 山形地区振興協議会 |
| 5  | 00地ごしらえ    | 02下刈り       | ナタガマ     |           | 1      | 500        | 120 | 30    | 下刈り、地拵え   | 山形地区振興協議会 |
| 6  | 01植え付け     |             | トウグワ     |           | 1      | 895        | 80  | 240   | 柄の太さ35、ヤマ善焼印。地ごしらえに使う。トウグワの後にバチツルがつかわれるようになった。                        | 山形地区振興協議会 |
| 7  | 01植え付け     |             | トウグワ     |           | 1      | 810        | 85  | 230   | 地ごしらえに使う。トウグワの後にバチツルがつかわれるようになった。                                     | 山形地区振興協議会 |
| 8  | 01植え付け     |             | トウグワ     |           | 1      | 720        | 78  | 375   | 商標名バチツル。地ごしらえに使う。トウグワの後にバチツルがつかわれるようになった。                             | 山形地区振興協議会 |
| 9  | 01植え付け     |             | 苗袋       |           | 1      | 580        | 480 | 厚み100 | 下方に苗を取り出す穴をあけてある。   | 山形地区振興協議会 |
| 10 | 02下刈り      | 00地ごしらえ     | 長柄の下刈カマ  | シタカリガマ    | 1      | 1378       |     |       | 下刈用。柄1195。刃渡り250。「別打品、特級品」。男女ともに使用。春から夏まで2～3回した。                      | 山形地区振興協議会 |
| 11 | 02下刈り      | 00地ごしらえ     | 長柄の下刈カマ  | シタカリガマ    | 1      | 1465       |     |       | サビあり。柄1217。刃渡り260。  | 山形地区振興協議会 |
| 12 | 02下刈り      |             | 下刈ガマ     |           | 1      | 1537       | 4   | 240   | 木製の刃先カバーあり。柄の太さ30。  | 山形地区振興協議会 |
| 13 | 02下刈り      |             | 下刈ガマ     |           | 1      | 1540       | 4   | 250   | 柄の太さ30。   | 山形地区振興協議会 |
| 14 | 02下刈り      |             | 下刈ガマ     |           | 1      | 1395       | 4   | 250   | 柄の中央に白テープ巻く。柄の太さ31。   | 山形地区振興協議会 |
| 15 | 03枝打ち      |             | 枝打ちナタ    | ナタ        | 1      | 350        | 71  |       | 柄布巻。刃渡り145。銘「160」。農協や下山金物店(智頭町)を通じて土佐から仕入れる。                          | 山形地区振興協議会 |
| 16 | 03枝打ち      |             | 枝打ちナタ    | ナタ        | 1      | 370        | 70  |       | 柄ビニールテープ。刃渡り145。「鳥飼謹製」  | 山形地区振興協議会 |
| 17 | 03枝打ち      |             | 枝打ちナタ    | ナタ        | 1      | 386        |     |       | 刃渡り150。印刻「50」「土佐の宗石作」。古い。最近重いのであまり使わない。宗石刃物製作所は高知県香美市土佐山田町植1060-1に現存。 | 山形地区振興協議会 |
| 18 | 03枝打ち      |             | パイ       | パイ        | 1      | 160        | 290 | 150   | アルミ製。平成になってから使いはじめ。若桜で作ってもらった。木製のパイもあった。ヒノキ製だった。                      | 山形地区振興協議会 |
| 19 | 03枝打ち      |             | 枝打ちナタ    | ナタ        | 1      | 322        | 73  |       | 刃渡り155  | 山形地区振興協議会 |
| 20 | 03枝打ち      |             | むかでばしご   | ムカデバシゴ    | 1      | 2700       | 275 |       | 展示のため上部切断。長いもので6000ミリ、8000ミリがあった。本体は杉、枝(コ)はヒノキ製。資料場番号143の足と組み。        | 山形地区振興協議会 |
| 21 | 03枝打ち      |             | むかでばしごの足 | ムカデバシゴノアシ | 1      | 235        | 230 |       | 穴の直径60。むかでばしごの下に取り付ける。足の先が地面に刺さり、梯子がずれることを防ぐ。                         | 山形地区振興協議会 |
| 22 | 03枝打ち(手入れ) |             | (材起こし)   |           | 1      | 640        | 110 | 10    | 倒れた杉(10-15年くらい)を起こして根付けさせる。   | 山形地区振興協議会 |

| No | 作業工程大分類    | 作業工程中分類 | 資料名    | シリウメイ  | 点数 | 長さ<br>(ミリ) | 巾   | 高さ  | 備考   | 所有者       |
|----|------------|---------|--------|--------|----|------------|-----|-----|--|-----------|
| 23 | 03枝打ち(手入れ) |         | (材起こし) |        | 1  | 800        | 120 | 10  | 倒れた杉(10-15年くらい)を起こして根付けさせる。  | 山形地区振興協議会 |
| 24 | 03枝打ち(手入れ) |         | (材起こし) |        | 1  | 160        | 35  | 10  | 倒れた杉(10-15年くらい)を起こして根付けさせる。  | 山形地区振興協議会 |
| 25 | 04除伐・間伐    | 05主伐    | 刻印     | コクイン   | 1  | 336        | 99  |     | 「二重ヤマ登」。伐採前に木の根っこをナタで削って、炭壺の炭を付けて、印を打つ。木を切るより下に打つ。杉の売主が打つ。間伐によく使用。大切に保管すべきもの。炭壺とセットになるが、展示がない。 | 山形地区振興協議会 |
| 26 | 04除伐・間伐    | 05主伐    | 焼印     | ヤキイン   | 1  | 405        |     | 29  | 「マル木」  | 山形地区振興協議会 |
| 27 | 05主伐       |         | 鋸(大)   | オオノコ   | 1  | 940        | 40  | 200 | 刃渡り550。柄は桐で自作する。   | 山形地区振興協議会 |
| 28 | 05主伐       |         | 鋸(大)   | オオノコ   | 1  | 725        |     | 125 | 刃渡り552。  | 山形地区振興協議会 |
| 29 | 05主伐       |         | 鋸(大)   | オオノコ   | 1  | 809        |     | 205 | 刃渡り617。絵符「武田康和、昭和20～30年代」  | 山形地区振興協議会 |
| 30 | 05主伐       |         | 鋸      | オオノコ   | 1  | 700        |     | 105 | 刃渡り520。  | 山形地区振興協議会 |
| 31 | 05主伐       |         | 鋸      | オオノコ   | 1  | 625        |     | 138 | 刃渡り522。付箋「No 25」。  | 山形地区振興協議会 |
| 32 | 05主伐       |         | 鋸      | オオノコ   | 1  | 689        |     | 134 | 刃渡り535。柄なし。印刻「黒打元祖【片■】(岩)立本家 精撰」。  | 山形地区振興協議会 |
| 33 | 05主伐       |         | 鋸      | オオノコ   | 1  | 725        |     | 122 | 刃渡り548。サビ多い。   | 山形地区振興協議会 |
| 34 | 05主伐       |         | 鋸      | オオノコ   | 1  | 585        |     | 102 | 刃渡り444。印刻あり「■久 精撰」   | 山形地区振興協議会 |
| 35 | 05主伐       |         | 改良鋸    | カイリヨウバ | 1  | 650        |     | 88  | 刃渡り488。サビ多し。印刻あり。オオノコの改良刃。改良刃は昭和30年代から使用。智頭の下山金物店で購入。下山金物は、智頭の業者ですすでに廃業。                       | 山形地区振興協議会 |
| 36 | 05主伐       |         | 鋸      | オオノコ   | 1  | 765        |     | 113 | 刃渡り553。印刻「別打品 五郎丸 登録商標 神沢 五郎丸(花美囊郡押)」。神澤五郎丸は、兵庫県三木町の鋸業者と推定。                                    | 山形地区振興協議会 |
| 37 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 805        |     | 64  | 杉材。  | 山形地区振興協議会 |
| 38 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 934        |     | 70  | 杉材。  | 山形地区振興協議会 |
| 39 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 962        |     | 58  | 杉材。  | 山形地区振興協議会 |
| 40 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 841        |     | 57  | 杉材。  | 山形地区振興協議会 |
| 41 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 775        |     | 45  | 杉材。  | 山形地区振興協議会 |
| 42 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 622        |     | 43  | 墨書「智頭■八頭郡山郷村字西谷 ■■幸一」。杉材   | 山形地区振興協議会 |
| 43 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 590        |     | 33  | 杉材。  | 山形地区振興協議会 |
| 44 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 715        |     | 40  | 杉材。  | 山形地区振興協議会 |
| 45 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 827        |     | 47  | 焼印「○竹」。杉材。   | 山形地区振興協議会 |
| 46 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 790        |     | 39  | 絵符「大河保正」。杉材。   | 山形地区振興協議会 |
| 47 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 709        |     | 46  | 絵符「大河保正」。杉材。   | 山形地区振興協議会 |
| 48 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 694        |     | 46  |  | 山形地区振興協議会 |
| 49 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 667        |     | 45  | 焼印「○竹」   | 山形地区振興協議会 |
| 50 | 05主伐       |         | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1  | 707        |     | 42  | 焼印「○竹」   | 山形地区振興協議会 |

| No | 作業工程大分類 | 作業工程<br>中分類 | 資料名    | シリョウメイ | 点<br>数 | 長さ<br>(ミリ) | 巾   | 高さ  | 備考   | 所有者       |
|----|---------|-------------|--------|--------|--------|------------|-----|-----|--|-----------|
| 51 | 05主伐    |             | 鋸のサヤ   | サヤ     | 1      | 565        |     | 59  |  | 山形地区振興協議会 |
| 52 | 05主伐    |             | 矢      | ヤ      | 1      | 552        | 62  | 44  | 立木用。樫。プラスチックはすべるので樫が一番いい。ヨキの頭で打つ。  | 山形地区振興協議会 |
| 53 | 05主伐    |             | 矢      | ヤ      | 1      | 546        | 63  | 35  | 立木用。頭に鉄輪あり。樫製。木を倒すとき使う矢は、チェーンソーの刃が当たることがあるので、金属やプラスチックよりも木製が良い。                      | 山形地区振興協議会 |
| 54 | 05主伐    |             | 矢      | ヤ      | 1      | 352        | 50  | 39  | 立木用。鉄輪あり。樫製。木を倒すとき使う矢は、チェーンソーの刃が当たることがあるので、金属やプラスチックよりも木製が良い。                        | 山形地区振興協議会 |
| 55 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | オノ     | オノ     | 1      | 920        |     | 229 | 柄に墨書「寺谷明宏」。金属頭に印刻「町井」。刃渡り198。刃カバー付。付箋「NO4」。ハツリという言葉はある。                              | 山形地区振興協議会 |
| 56 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | そまよき   | ソマヨキ   | 1      | 821        |     | 212 | 刃渡り91。付箋「No 6」。印刻「芦茂」。頭を使って矢をたたく。  | 山形地区振興協議会 |
| 57 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | よき     | ヨキ     | 1      | 733        |     | 165 | 刃渡り85。印刻「土佐ヤマ西 河」。付箋「No 9」刃にカバーあり。頭を使って矢をたたく。  | 山形地区振興協議会 |
| 58 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 改良鋸    | カイリョウバ | 1      | 904        | 96  |     | 刃渡り550。絵符「竹内康和」。印刻「鍛造品、商標登録、ヤマカ 下山、製鋸所、(花押)」。下山金物は、智頭の業者ですすでに廃業。                     | 山形地区振興協議会 |
| 59 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 鋸      | オオノコ   | 1      | 957        | 142 |     | 刃渡り650。絵符「竹内康和」。印刻「五郎丸、商標登録、神澤 五郎丸(花押)」。神澤五郎丸は、兵庫県三木町の鋸業者と推定。                        | 山形地区振興協議会 |
| 60 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 改良鋸    | カイリョウバ | 1      | 935        | 120 |     | 刃渡り550。印刻「別打品 五郎丸、登録商標 下山金物店請合」神澤五郎丸は、兵庫県三木町の鋸業者と推定。下山金物は、智頭の業者ですすでに廃業。              | 山形地区振興協議会 |
| 61 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 鋸      | オオノコ   | 1      | 165        | 162 |     | 付箋「芦津 小宮山晃次」刃渡り622。印刻「五郎丸 登録商標 五郎丸作 五郎丸(花押)」下山金物は、智頭の業者ですすでに廃業。神澤五郎丸は、兵庫県三木町の鋸業者と推定。 | 山形地区振興協議会 |
| 62 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 鋸      | オオノコ   | 1      | 975        | 170 |     | 刃渡り620。印刻あり。絵符「大河原正」。付箋「No17」  | 山形地区振興協議会 |
| 63 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 改良鋸    | カイリョウバ | 1      | 1120       | 196 |     | 刃渡り712。印刻「安来鋼 登録商標 津村末広 特選」  | 山形地区振興協議会 |
| 64 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 鋸      | オオノコ   | 1      | 827        | 95  |     | 刃渡り516。絵符「竹内康和」。印刻「別打品 五郎丸 登録商標 安来正鋼 神澤五郎丸(花押)」神澤五郎丸は、兵庫県三木町の鋸業者と推定。                 | 山形地区振興協議会 |
| 65 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 鋸      | オオノコ   | 1      | 897        | 130 |     | 刃渡り564。印刻あり。   | 山形地区振興協議会 |
| 66 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | チェーンソー | チェーンソー | 1      | 840        | 250 | 310 | 刃渡り510。昭和30年から40年代。  | 山形地区振興協議会 |
| 67 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | チェーンソー | チェーンソー | 1      | 1210       | 260 | 290 | 刃渡り900。竹内家で父が昭和30年代に初めてかった。  | 山形地区振興協議会 |
| 68 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | チェーンソー | チェーンソー | 1      | 940        | 190 | 280 | 刃渡り510。付箋「No 17」   | 山形地区振興協議会 |

| No | 作業工程大分類 | 作業工程<br>中分類 | 資料名           | シリョウメイ          | 点<br>数 | 長さ<br>(ミリ) | 巾   | 高さ  | 備考  | 所有者           |
|----|---------|-------------|---------------|-----------------|--------|------------|-----|-----|---|---------------|
| 69 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 鋸             | オオノコ            | 1      | 830        | 129 |     | 刃渡り545  | 山形地区振興<br>協議会 |
| 70 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 刻印            | コクイン            |        | 330        | 20  | 900 | 「ヤマ十」大呂佳己氏所蔵。切る予定に杉に印刻をする。刻印は切る杉の斜面下方の地面に近い部分を削り、そこに墨をつけてつける。なるべく根元を切れるように下方につける。斜面の下側の筒柄がものさしになっている。現用品。 | 山形地区振興<br>協議会 |
| 71 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 炭壺            | アブラツボ           |        |            | 55  | 750 | 刻印用の炭壺。現用品。印刻のゴミをとる釘がついていることもある。  | 山形地区振興<br>協議会 |
| 72 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | ノコギリさや        |                 | 1      | 470        | 90  | 20  | さやのみ。手のこ？   | 山形地区振興<br>協議会 |
| 73 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 手鋸            |                 | 1      | 450        | 50  | 35  | サヤ付。刃220。常にヨキと腰に下げさまざま使用。   | 山形地区振興<br>協議会 |
| 74 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 手鋸            |                 | 1      | 560        | 60  | 35  | サヤ付。刃360。常にヨキと腰に下げさまざま使用。足場材、筏などによく使用   | 山形地区振興<br>協議会 |
| 75 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 手鋸            |                 | 1      | 630        | 60  |     | サヤ付。刃360。常にヨキと腰に下げさまざま使用。足場材、筏などによく使用   | 山形地区振興<br>協議会 |
| 76 | 05主伐    | 04除伐・<br>間伐 | 手よき           |                 | 1      | 565        | 155 | 25  | 伐採、くさびを打つ。枝打ち。腰に下げる。  | 山形地区振興<br>協議会 |
| 77 | 05主伐    | 06集材・<br>搬出 | 小物入れ          |                 | 1      | 260        | 190 |     | 山主とのヤマ見用の小物入れ。手帳巻尺、ペン。  | 山形地区振興<br>協議会 |
| 78 | 06集材・搬出 |             | ツル            | ツル              | 1      | 1615       |     |     | 柄1442。金属364。絵符「前橋登」。柄に針金巻あり。ツルはこでる(こねる)ようにつかう。  | 山形地区振興<br>協議会 |
| 79 | 06集材・搬出 |             | キリントビ・ツル      | キリントビ・ツル        | 1      | 1455       |     |     | 柄1350。金属先252。絵符「大内 竹内」。柄にビニールテープ巻あり。前に押すように打ちこむ。普通のトビは引くように打つ。ツルとトビの両方の使い方ができる。                           | 山形地区振興<br>協議会 |
| 80 | 06集材・搬出 |             | キリントビ         | キリントビ           | 1      | 1415       |     |     | 柄1341。金属先209。絵符「大内 竹内」。奈良では「ドットこ」。柄にビニールテープ巻。トビにはオオトビ、キリントビ、タケトビの3種類ある。                                   | 山形地区振興<br>協議会 |
| 81 | 06集材・搬出 |             | 角がえし          | カクガエシ           | 1      | 1324       |     |     | 金属先385。絵符「H25.4.16 大坪勝康(米原)のこ 角がえし」。今でも製材所で使用、大きな丸太を回すのに使う。   | 山形地区振興<br>協議会 |
| 82 | 06集材・搬出 |             | 竹トビ           | タケトビ            | 1      | 1449       |     |     | 柄竹。くちばし120×75。主に足場丸太を出すときに使う。   | 山形地区振興<br>協議会 |
| 83 | 06集材・搬出 |             | ソリ            | ソリ              | 1      | 1953       | 269 | 121 | 一木づくり。冬場専用。樫の木製。昭和30年代。12月から3月。   | 山形地区振興<br>協議会 |
| 84 | 06集材・搬出 |             | ソリ            | ソリ              | 1      | 2125       | 533 | 169 |   | 山形地区振興<br>協議会 |
| 85 | 06集材・搬出 |             | キンマ           | キンマ             | 1      | 2113       | 522 | 176 | 昭和30～40年代まで使用。木を乗せる横木をゴダイと呼ぶ。杉で消耗品だった。単なる横木はコという。コロの上を滑らす。本体は樫で小さくなるとヨキの柄にした。                             | 山形地区振興<br>協議会 |
| 86 | 06集材・搬出 |             | カスガイ          | カスガイ            | 9      | 534        |     | 99  | キンマ用。トラックにも使用。  | 山形地区振興<br>協議会 |
| 87 | 06集材・搬出 |             | ワイヤロープ<br>起重機 | ワイヤロープ<br>キチョウキ | 1      | 410        | 209 | 134 | チルホール。集材用。日本ブロック株式会社「アゲラー」  | 山形地区振興<br>協議会 |
| 88 | 06集材・搬出 |             | 筏ヨキ           | イカダヨキ           | 1      | 481        |     |     | 刃260。焼印2か所あり。   | 山形地区振興<br>協議会 |



| No  | 作業工程大分類 | 作業工程<br>中分類 | 資料名             | シリョウメイ                         | 点数 | 長さ<br>(ミリ) | 巾            | 高さ   | 備考  | 所有者       |
|-----|---------|-------------|-----------------|--------------------------------|----|------------|--------------|------|---|-----------|
| 89  | 06集材・搬出 |             | はい作業主任者技能講習修了書  | ハイサクサギョウシュニンシャギノウコウシュウリョウシャショウ | 1  | 100        | 74           |      | 鳥取県   | 山形地区振興協議会 |
| 90  | 06集材・搬出 |             | 林業架線作業主任者免許状    | リンギョウカセンサギョウシュニンシャメンキョジョウ      | 1  | 92         | 68           |      | 奈良県   | 山形地区振興協議会 |
| 91  | 06集材・搬出 |             | いかだよき           | イカダヨキ                          | 1  | 489        |              | 125  |   | 山形地区振興協議会 |
| 92  | 06集材・搬出 |             | キンマ             | キンマ                            | 1  | 2100       | (719)<br>430 | 240  |   | 山形地区振興協議会 |
| 93  | 06集材・搬出 |             | キンマ             | キンマ                            | 1  | 2640       | 580          | 800  | 再現材含む。胴締めで木材を固定してある。  | 山形地区振興協議会 |
| 94  | 06集材・搬出 |             | レンジャク           | レンジャク                          | 1  | 1710       |              |      |   | 山形地区振興協議会 |
| 95  | 06集材・搬出 |             | あぶらつぼとふで        | アブラツボ・フデ                       | 1  | 410        | 90           |      | 復元。竹。廃油を使う。ガソリンスタンドから廃油をもらった。   | 山形地区振興協議会 |
| 96  | 06集材・搬出 |             | トロッコのブレーキ       | トロッコブレーキ                       | 1  | 350        | 220          | 240  |   | 山形地区振興協議会 |
| 97  | 06集材・搬出 |             | 山林鉄道機関車         | キカンシャ                          | 1  | 3050       | 1250         | 2300 | 協三工業製。エンジンは三菱。  | 山形地区振興協議会 |
| 98  | 06集材・搬出 |             | 山林鉄道貨車          | カシヤ                            | 2  | 2025       | 1150         | 350  |   | 山形地区振興協議会 |
| 99  | 06集材・搬出 |             | 索道集材器           | サクドウシュウザイキ                     | 1  | 1100       | 600          | 800  |   | 山形地区振興協議会 |
| 100 | 06集材・搬出 |             | 索道キャレツジ         | サクドウウンバンキ                      | 1  | 2000       |              |      |   | 山形地区振興協議会 |
| 101 | 06集材・搬出 |             | オオトビ            | オオトビ                           | 1  | 1350       | 180          |      | 山で木を落とすために使用。トラックの荷卸し用は先がとがって抜けないようになっており、山の木落としよりは先が曲がってすぐ抜けるようになっている。 | 山形地区振興協議会 |
| 102 | 06集材・搬出 |             | キンマの舵棒用のカスガイにぎり |                                | 1  | 170        | 750          | 50   | 左手で握る舵の取っ手部分。展示用のカスガイは、参考品でこちらが本物。                                      | 山形地区振興協議会 |
| 103 | 06集材・搬出 |             | 万力              |                                | 1  | 160        | 70           | 30   | 搬出用。足場材など軽いもの。  | 山形地区振興協議会 |
| 104 | 07製材    |             | こびき鋸            | コビキ                            | 1  | 658        |              | 282  | 刃渡り529。柄なし。樽などを作るのに山中で使用。   | 山形地区振興協議会 |
| 105 | 07製材    |             | こびき鋸            | コビキ                            | 1  | 672        |              | 338  | 刃渡り547。サビあり。  | 山形地区振興協議会 |
| 106 | 07製材    |             | 結束鎌             | ケツソクガマ                         | 1  | 725        |              |      | 柄532、刃渡り264。杉皮の束の端をそろえる。二重ヤマオ   | 山形地区振興協議会 |
| 107 | 07製材    |             | ヘラ              | ヘラ                             | 1  | 391        | 25           |      | 杉の皮をはぐ。ヒノキ。孟宗竹も使う。応急で杉枝も使った。鉄製もある。鍛冶屋で作った。                              | 山形地区振興協議会 |
| 108 | 07製材    |             | カマ(カワハギ用)       | カマ                             | 1  | 443        |              |      | 絵符「大内、竹内」。柄397、刃渡り92。「No 3」の付箋有。皮をとるカマ。                                 | 山形地区振興協議会 |
| 109 | 07製材    |             | カマ(カワハギ用)       | カマ                             | 1  | 391        |              |      | 一般鎌の刃を折って製作。柄335、刃65。下刈鎌、草刈鎌が折れたものを再利用した。                               | 山形地区振興協議会 |
| 110 | 07製材    | 08製品        | ハサミ尺            | ハサミジャク                         | 1  | 526        |              | 220  | 1尺5寸。縁桁の末口を計る。12メートル末口何センチと注文が入る。                                       | 山形地区振興協議会 |
| 111 | 07製材    |             | 矢               | ヤ                              | 1  | 175        | 42           |      | 腰につける。122×42。絵符「大内、竹内」。造材用。玉切り用の矢。                                      | 山形地区振興協議会 |
| 112 | 07製材    |             | じょれん            | ジョレン                           | 1  | 725        | 120          | 50   | 刃渡り105。皮をむく。足場丸太などの残りを削ったり、冬場の皮を削る。大きな杉は鬼皮を薄くしてから皮むきをした。                | 山形地区振興協議会 |

| No  | 作業工程大分類 | 作業工程<br>中分類 | 資料名            | シリウメイ     | 点数 | 長さ<br>(ミリ) | 巾   | 高さ   | 備考   | 所有者       |
|-----|---------|-------------|----------------|-----------|----|------------|-----|------|--|-----------|
| 113 | 07製材    |             | 前挽きのこ          | マエビキノコ    | 1  | 860        | 375 |      | 刃渡り557.                                    | 山形地区振興協議会 |
| 114 | 07製材    |             | 前挽き大鋸<br>(前挽き) | マエビキ      | 1  | 1305       | 215 |      | 刃渡り510. 首680. 首が長い。                        | 山形地区振興協議会 |
| 115 | 07製材    |             | 丸鋸             | マルノコ      | 1  | 435        |     |      | 製材所で使用。                                    | 山形地区振興協議会 |
| 116 | 07製材    |             | 丸鋸             | マルノコ      | 1  | 502        |     |      | 製材所で使用。                                    | 山形地区振興協議会 |
| 117 | 07製材    |             | 矢              | ヤ         | 1  | 285        | 55  | 45   | 薪にする木を割るために使用。金属のカバーがあると、ノコギリの刃を痛めるので使わない。 | 山形地区振興協議会 |
| 118 | 07製材    |             | 皮むき(竹)         | カワムキ      | 1  | 332        | 27  | 15   |  | 山形地区振興協議会 |
| 119 | 07製材    |             | 皮むき(竹)         | カワムキ      | 1  | 305        | 23  | 15   |  | 山形地区振興協議会 |
| 120 | 07製材    |             | 皮むき(鉄)         | カワムキ      | 1  | 300        | 15  | 28   | 西粟倉のもの                                     | 山形地区振興協議会 |
| 121 | 07製材    |             | 折れ尺            |           | 1  | 1000       | 3   | 17   | ノギス?名称要確認。T. T. S56.12.15 の銘あり             | 山形地区振興協議会 |
| 122 | 07製材    |             | 検尺棒            | (ケンジャクボウ) | 1  | 1053       | 15  | 92   | 断面を計る。表裏ともメーター法。                           | 山形地区振興協議会 |
| 123 | 08製品・加工 |             | 杉皮             | スギカワ      | 2  | 340        | 320 |      | 900×450が規格。5枚で結束した。幅、328、320。2枚が割れて3枚。     | 山形地区振興協議会 |
| 124 | 08製品・加工 |             | 杉の正目板          | マサメイタ     | 12 | 604        | 102 | 16   | 各種あり。桶用。                                   | 山形地区振興協議会 |
| 125 | 08製品・加工 |             | 焼印             | ヤキイン      | 1  | 314        |     | 42   | 「国体記念」。昭和60年の国体に杉の製品を作った。それに使用した焼印。        | 山形地区振興協議会 |
| 126 | 08製品・加工 |             | 焼印             | ヤキイン      | 1  | 294        |     | 41   | 「空手道」昭和60年の国体に杉の製品を作った。智頭は鳥取国体の空手会場になった。   | 山形地区振興協議会 |
| 127 | 08製品・加工 |             | 糸鋸             | イトノコ      | 1  | 665        | 425 | 1010 | 林業には直接関係ない。                                | 山形地区振興協議会 |
| 128 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 227        | 98  |      | 製品に記入する。「6.0×6.0」                          | 山形地区振興協議会 |
| 129 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 284        | 110 |      | 製品に記入する。「厚 巾 寸 分」                          | 山形地区振興協議会 |
| 130 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 420        | 79  |      | 製品に記入する。「五 六 七 八 九」                        | 山形地区振興協議会 |
| 131 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 353        | 92  |      | 製品に記入する。「杉正角」                              | 山形地区振興協議会 |
| 132 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 222        | 87  |      | 製品に記入する。「一等」                               | 山形地区振興協議会 |
| 133 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 205        | 80  |      | 製品に記入する。「三寸」                               | 山形地区振興協議会 |
| 134 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 360        | 90  |      | 製品に記入する。「杉平角」                              | 山形地区振興協議会 |
| 135 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 375        | 80  |      | 製品に記入する。「十三尺二寸」                            | 山形地区振興協議会 |
| 136 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 349        | 80  |      | 製品に記入する。「六尺六寸」                             | 山形地区振興協議会 |
| 137 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 203        | 80  |      | 製品に記入する。「二 五」                              | 山形地区振興協議会 |
| 138 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 240        | 84  |      | 製品に記入する。「二等」                               | 山形地区振興協議会 |
| 139 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 405        | 92  |      | 製品に記入する。「6 7 89 0」                         | 山形地区振興協議会 |
| 140 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 320        | 80  |      | 製品に記入する。「牧 本 入」                            | 山形地区振興協議会 |
| 141 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 425        | 90  |      | 製品に記入する。「特等 特一等」                           | 山形地区振興協議会 |
| 142 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 378        | 80  |      | 製品に記入する。「○ ー 二 三 四」                        | 山形地区振興協議会 |
| 143 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 400        | 89  |      | 製品に記入する。「1 2 3 4 5」                        | 山形地区振興協議会 |
| 144 | 08製品・加工 |             | 刷り込み板          | スリコミイタ    | 1  | 480        | 82  |      | 製品に記入する。「6 7 8 9 0 入」                      | 山形地区振興協議会 |
| 145 | 09作業全般  |             | ケハン            | ケハン       | 6  | 283        |     | 392  | 3組。脚絆か。                                    | 山形地区振興協議会 |

| No  | 作業工程大分類            | 作業工程<br>中分類 | 資料名     | シリョウメイ     | 点<br>数 | 長さ<br>(ミリ) | 巾    | 高さ   | 備考   | 所有者       |
|-----|--------------------|-------------|---------|------------|--------|------------|------|------|--|-----------|
| 146 | 09作業全般             |             | みの      | ミノ         | 1      | 950        | 1480 |      | 絵符「大坪友太郎 米原」   | 山形地区振興協議会 |
| 147 | 09作業全般             |             | みの袋     | ミノブクロ      | 1      | 1620       | 190  |      | みのとセット「米原 糶屋」とあり。                                    | 山形地区振興協議会 |
| 148 | 09作業全般             |             | ふいご     | フイゴ        | 1      | 920        | 210  | 450  | 墨書「大極■ 三尺 二左衛門」。トビ先をたたいて直す。角                         | 山形地区振興協議会 |
| 149 | 09作業全般             |             | 水筒      | スイトウ       | 1      | 220        | 175  | 65   | ミドリ  | 山形地区振興協議会 |
| 150 | 09作業全般             |             | 水筒      | スイトウ       | 1      | 220        | 130  | 70   | 白  | 山形地区振興協議会 |
| 151 | 09作業全般             | 06集材・<br>搬出 | キンマ小屋   | キンマゴヤ      | 1      | 1190       | 1840 | 2350 | 杉屋根。キンマなど山仕事道具収納場所。奥行1190。他人の家の軒を借りることもあった。          | 山形地区振興協議会 |
| 152 | 09作業全般             |             | ろうそくランプ | ロウシクランプ    | 1      | 329        | 118  |      | 「火の用心、浅見、藤原」山仕事に関係ない？                                | 山形地区振興協議会 |
| 153 | 09作業全般             |             | やすり入れ   | ヤスリイレ      | 1      | 242        | 85   | 53   | ヤスリ5本、柄①本、目分け1入りなど目立て道具入れ。                           | 山形地区振興協議会 |
| 154 | 09作業全般             |             | こしず     | コシズ        | 1      | 89         | 170  | 247  | ビニールひもで補修有。ツル。枝打ちナタ入れ                                | 山形地区振興協議会 |
| 155 | 09作業全般             |             | こしず     | コシズ        | 1      | 83         | 193  | 250  | 枝打ちナタを入れる  | 山形地区振興協議会 |
| 156 | 09作業全般             |             | 鋸の目立て台  | ノコノメタテダイ   | 1      | 106        | 108  | 71   | 山林鉄道のレールなどを利用。                                       | 山形地区振興協議会 |
| 157 | 09作業全般             |             | 目立て鋸    | マタテツチ      | 1      | 274        |      |      | 金属104  | 山形地区振興協議会 |
| 158 | 09作業全般             |             | 目立て鋸    | マタテツチ      | 1      | 299        |      |      | 金属91   | 山形地区振興協議会 |
| 159 | 09作業全般             |             | 焼印      | ヤキイン       | 1      | 299        |      | 38   | 「智頭町」。道具に焼く。   | 山形地区振興協議会 |
| 160 | 09作業全般             |             | こしず     | コシズ        | 1      | 39         | 210  | 304  | 木、ブラ。  | 山形地区振興協議会 |
| 161 | 09作業全般             |             | ブリキの弁当箱 | ブリキノベントウバコ | 3      | 170        | 108  | 69   | 大170、108、69。中170、110、47、小122、86、26。リックに入れても山に持って行った。 | 山形地区振興協議会 |
| 162 | 09作業全般             |             | 水筒      | スイトウ       | 1      | 229        | 145  | 61   |  | 山形地区振興協議会 |
| 163 | 09作業全般             |             | こしず     | コシズ        | 1      | 220        | 160  | 45   |  | 山形地区振興協議会 |
| 164 | 09作業全般             |             | 板がさ     | イタガサ       | 1      | 450        | 450  | 150  | かつて山仕事にはヘルメットでなく板がさを使用した。                            | 山形地区振興協議会 |
| 165 | 09作業全般             |             | わらじ     | ワラジ        | 1      | 230        | 100  | 50   |  | 山形地区振興協議会 |
| 166 | 09作業全般             |             | みの      | みの         | 1      | 1000       | 700  |      |  | 山形地区振興協議会 |
| 167 | 09作業全般             |             | セナアテ    | セナアテ       | 1      | 800        | 600  |      | 薪用。  | 山形地区振興協議会 |
| 168 | 09作業全般             |             | オイコ     | オイコ        | 1      | 1200       | 40   |      |  | 山形地区振興協議会 |
| 169 | 09道具修繕             |             | (目立て台)  |            | 1      | 300        | 210  | 35   | 鋸目立て用  | 山形地区振興協議会 |
| 170 | 09道具修繕             |             | (目立て台)  |            | 1      | 280        | 210  | 56   | 鋸目立て用  | 山形地区振興協議会 |
| 171 | 09道具修繕             | 09道具修繕      | 鞆       |            | 1      |            |      |      | 道具修理用。曲がったり折れたりするトビ先修理によく使う。                         | 山形地区振興協議会 |
| 172 | 10その他原材料など         |             | ひる皮     | ヒルカワ       | 1      | 530        | 205  |      | 一束。シナノキの皮。   | 山形地区振興協議会 |
| 173 | 10その他原材料など         |             | お神酒     | オミキ        | 1      | 405        | 100  |      | 11月9日が山の神日。休み。                                       | 山形地区振興協議会 |
| 174 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 1採集         | オウレンカギ  | オウレンカギ     | 1      | 350        |      | 104  |  | 山形地区振興協議会 |
| 175 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 1採集         | 黄蓮種まき籠  | オウレンタネマキカゴ | 1      | 320        | 300  | 150  |  | 山形地区振興協議会 |
| 176 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 1採集         | 黄蓮鋸(カギ) | オウレンゲワ・カギ  | 1      | 400        | 110  | 50   | 黄蓮掘り専用   | 個人        |

| No  | 作業工程大分類            | 作業工程<br>中分類 | 資料名      | シリョウメイ     | 点<br>数 | 長さ<br>(ミリ) | 巾   | 高さ  | 備考   | 所有者       |
|-----|--------------------|-------------|----------|------------|--------|------------|-----|-----|--|-----------|
| 177 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 1採集         | 黄連鎌(カギ)  | オウレングワ・カギ  | 1      | 370        | 580 | 110 | 黄連掘り専用   | 個人        |
| 178 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 2運搬・搬出      | 荒縄       | アラナワ       | 1      |            |     |     | 採取者は一尋の長さの縄で採取した黄連を葉と根交互に重ねて縛った。縛ったオウレンは一尺×二尺程度。 | 個人        |
| 179 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 2運搬・搬出      | オイコ      | オイコ        | 1      | 3000       |     | 55  | 背負縄。黄連を山から運び出す。                                  | 個人        |
| 180 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 2運搬・搬出      | ドンゴロス    | ドンゴロス      | 5      | 1000       | 600 |     | 採取者が出荷時に黄連を入れる麻袋。約20キログラム入る。種の採取にも使用。            | 個人        |
| 181 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | オウレンワケキ  |            | 1      | 525        | 150 | 135 | オウレンの根を分ける。特注品。下の台は廃棄されている。                      | 山形地区振興協議会 |
| 182 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 髭根切の鎌    | ヒゲネキリノカマ   | 1      | 580        | 200 | 50  | 黄連を割る前におおかたの髭根を切り落とす。刃150。                       | 個人        |
| 183 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 黄連分け機(新) | オウレンワケキ    | 1      | 900        | 510 | 360 | 塊になっている黄連をテコの原理で分け加工しやすくする。                      | 個人        |
| 184 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 黄連分け機(古) | オウレンワケキ    | 1      | 700        | 220 | 380 | 塊になっている黄連をテコの原理で分け加工しやすくする。                      | 個人        |
| 185 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 毛焼きバーナー  | ケヤキバーナー    | 1      | 600        | 80  | 80  | 髭根を焼いて整形する。先、バーナー部分のみ計測。                         | 個人        |
| 186 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 火箸       | ヒバシ        | 1      | 740        | 5   | 5   | ひげ根焼きの時に、黄連をひっくり返す。                              | 個人        |
| 187 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 盥        | タライ        | 1      |            |     |     | 焼いた黄連を入れて、草履を付けた両手で揉むときれいになった。磨き車以前の方法。          | 個人        |
| 188 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 黄連磨き車    | オウレンミガキクルマ | 1      | 850        | 650 | 110 | 回転の力で黄連の髭根やごみをとる。手動で古いタイプ。                       | 個人        |
| 189 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 黄連磨き車    | オウレンミガキクルマ | 1      |            |     |     | 回転の力で黄連の髭根やごみをとる。電動。                             | 個人        |
| 190 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 篩        | フルイ        | 1      | 780        | 580 | 110 |  | 個人        |
| 191 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 箕        | ミ          | 1      |            |     |     |  | 個人        |
| 192 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 髭根切の鎌    | ヒゲネキリノカマ   | 1      | 620        | 80  | 180 | 黄連を割る前におおかたの髭根を切り落とす。刃150。                       | 個人        |
| 193 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 黄連割機     | オウレンワリキ    | 1      | 480        | 450 | 830 | 塊になっている黄連を砕いて加工しやすくする。                           | 個人        |
| 194 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 毛焼きバーナー  | ケヤキバーナー    | 1      | 1100       | 80  | 80  | 髭根を焼いて整形する。先、バーナー部分のみ計測。「HANTA」とあり。              | 個人        |
| 195 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 黄連磨き車    | オウレンミガキクルマ | 1      | 1455       | 840 | ### | 回転の力で黄連の髭根やごみをとる。                                | 個人        |
| 196 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 篩        | フルイ        | 1      | 600        | 380 | 100 | 網目3ミリ  | 個人        |
| 197 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 筵        | ムシロ        | 1      | 1830       | 930 |     | バーナーで髭根を焼いた後、天日干しにする。                            | 個人        |
| 198 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | 箕        | ミ          | 1      | 680        | 740 | 230 | 整形過程で黄連の運搬に使用。「昭和52年新調」「〇大」とあり。                  | 個人        |
| 199 | 20複合的な自然栽培等に関連する用具 | 3調製         | とんぼ      | トンボ        | 1      | 1670       | 920 | 175 | 干した黄連を延ばす。                                       | 個人        |

| No  | 作業工程大分類           | 作業工程<br>中分類 | 資料名   | シリウメイ        | 点数 | 長さ<br>(ミリ) | 巾   | 高さ  | 備考                                     | 所有者 |
|-----|-------------------|-------------|-------|--------------|----|------------|-----|-----|--|-----|
| 200 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 3調製         | 篩     | フルイ          | 1  | 625        | 455 | 112 | 網目6ミリ。「NO.3」とマジック書きあり                  | 個人  |
| 201 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 3調製         | 篩     | フルイ          | 1  | 913        | 460 | 105 | 網目6ミリ。「NO.2」とマジック書きあり                  | 個人  |
| 202 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 3調製         | 通し    | トオン          | 1  | 635        | 455 | 200 | 黄蓮の種の選別用                               | 個人  |
| 203 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 3調製         | 篩     | フルイ          | 1  | 817        | 452 | 109 | 網目3ミリ。「NO.1」とマジック書きあり                  | 個人  |
| 204 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 3調製         | 篩     | フルイ          | 1  | 910        | 460 | 109 | 網目10ミリ。「NO.4」とマジック書きあり                 | 個人  |
| 205 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 3調製         | 箕     | ミ            | 1  | 645        | 730 | 190 |  | 個人  |
| 206 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 3調製         | 箕     | ミ            | 1  | 670        | 735 | 220 | 先が削れている(コンクリート上でこすれたため)                | 個人  |
| 207 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 3調製         | 箕     | ミ            | 1  | 730        | 805 | 205 |  | 個人  |
| 208 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 3調製         | 箕     | ミ            | 1  | 725        | 815 | 195 | 「S.57.3」とマジック書きあり                      | 個人  |
| 209 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 3調製         | 箕     | ミ            | 1  | 730        | 815 | 205 | 「S.57.3新調」とマジック書きあり                    | 個人  |
| 210 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 4計量・出荷      | 秤     | ハカリ          | 1  | 300        | 300 | 310 | 黄蓮を買い付けのとき、黄蓮の重さをはかる。30キロ用。かつては斤量を使用か？ | 個人  |
| 211 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 4計量・出荷      | 出荷箱   | シュツカバコ       | 1  | 745        | 530 | 620 | 薬品会社に出荷する。50キロ入る。ダンボール製                | 個人  |
| 212 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 5保守管理       | 山下刈り鎌 | ヤマシタガリ<br>カマ | 1  | 1568       | 240 | 30  | 山に黄蓮の種を播く前に、草を刈りきれいにした。                | 個人  |
| 213 | 20複合的な自然栽培等に関する用具 | 6製品         | 黄蓮根   | オウレンノネ       | 1  |            |     |     | 値が高いときは売った。自家用に使用もした。                  | 個人  |